

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 四日市 幼稚園

### 1 園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点1	<b>丈夫な体の育成</b>	3
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児の生活背景は自然体験や歩く機会が少ないことから、園ではできるだけ戸外での活動や自然体験ができるよう積極的に取り入れてきた。発達に合わせて運動遊びを取り入れ、幼児たちも意欲的に挑戦してきた。また、日常的に運動遊びを楽しむ姿が多くみられ、保護者評価も97%が「戸外での遊びが好きになった」や「体力がついた」と高く評価している。</li> <li>・家庭と連携し、生活リズムの確立にむけて『早ね・早おき・朝ごはん』に取り組んできた。9時までに登園することや、朝ごはんを食べてくることは身につけてきた。生活リズムのアンケートでは、5歳児になると寝る時間が遅くなっていることがみられる。冬には体操や駆け足などを実施し早く登園することや外遊びへ促していき、子どもの体づくりに努めてきた。5歳児は就学を前に意識して早く起きて登園する姿へと変わってきた。</li> <li>・4歳児は、食べ物の好き嫌が多い様子がみられたので、食育活動に積極的に取り組んだ。菜園活動を通して野菜に親しませたり、味わうことや栄養の話をわかりやすく話し食の教育をすすめた。その成果があり、野菜を食べる子が増え栄養に関心ももてた。</li> <li>・園外保育など、季節に応じて自然体験ができるよう今後も積極的に取り組んでいく必要がある。</li> </ul>	
重点2	<b>人とかかわる力の育成</b>	3
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の教育活動において生じる友達とのかかわりや、トラブルなどは「人とのかかわり」を知る『学び』の機会ととらえ指導してきた。5歳児の後半には、クラスで考えるなど学級での学びの機会をつくった。園生活の中での友だちとのかかわり方は具体的な人とのかかわりの基礎となり育ちにつながるよう心がけ取り組んできた。</li> <li>・園外活動や行事などの機会をとらえ、老人会の方や商店街の人など、いろいろな人とのかかわりを体験する中で、家族以外の人との「コミュニケーションの取り方」や「挨拶をすること」を知らせてきた。その場に応じた挨拶を教師が知らせ、友だちと一緒に経験する中で自ら挨拶をするよう促してきた。</li> <li>・保護者の評価については、『挨拶ができるようになった』と感じているのは85%で昨年度より評価は上がっている。『人の話を聴こうとする』についても昨年度より評価があがり、話を聴く態度が身につけてきた。『人にわかるように話すようになった』という点では、昨年度同様10%ができていないと評価しており、今後も発達に合わせ支援をしながら具体的な場面での伝え方を知らせ、力をつけていくようにしていきたい。</li> </ul>	
重点3	<b>教師の役割、教育活動の充実</b>	4
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員は、各自年間1回は公開保育を行い園外からの指導者を招き、研修や話し合いの機会をもった。幼児の発達に応じた支援や活動の場面での適切な指導について考え、職員間で共通理解があった。今後も広く公開保育を行い様々な観点から見てもらうことで幼児理解を深め、教師の力量を高めていくようにしていきたい。</li> <li>・教師は、日々の実践から幼児が意欲的に遊べるような環境づくりにつとめてきた。園児は「園が好きで喜んで通園している」「生活や遊びが楽しい」と感じていると保護者からは評価が高かった。今後も教育活動の充実を図り、幼児の発達に合った教材研究に努めたい。</li> <li>・研修会へ積極的に参加し、職員の資質向上に努めることができた。また、研修での学びを園内で還流しあう機会をもち、教職員全体の意識を高めることができた。月1回の園内の日には、研修報告だけでなく事例検討を深めていくよう取り組みたい。</li> </ul>	

重点 4	子育て支援の充実、地域・家庭との連携	4
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援活動の遊び会では、地域の協力を得て毎回多くの親子の参加があった。幼稚園教育を知ってもらう良い機会となっている。今年度は遊び会の充実を図るため3歳児の遊び会で、在園児との交流や昼食交流などにも取り組み、入園への接続となっている。</li> <li>・ホームページで、幼稚園の教育活動の内容や子どもの様子などの情報を発信することができた。</li> <li>・今年度も地域と連携した活動を積極的に行い、地域の幼稚園として親しまれ、幼児にとってもいろいろな体験や人との出会いの場となっている。商店街の笹飾りや「四日市まつり」「こどもの家まつり」など地域の祭りや催し等に親子で参加できた。</li> <li>・保護者主体の読み聞かせボランティアやPTA活動、人権教育講座など保護者の協力を得ることができ、幼稚園教育への支えとなった。</li> <li>・学びの一体化研修を軸にして、近隣の保育園、小学校、中学校との交流を深めることができた。</li> </ul>	

## 2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の体づくりを促すため、運動遊びを積極的に行えるよう一人ひとりの発達を分析し、遊び場が適切に設定できているのか、日々の環境を見直し取り組みを進めたい。</li> <li>・幼児の一人一人の発達に合わせた教育活動の展開ができるよう、教師は、今後も一緒に遊び生活する中で幼児理解に努めていく。その中で、発達課題を明らかにし教職員全体で共通理解し指導援助できるようにしていきたい。そのための園内研修会の定例化や内容の工夫をしていく必要がある。</li> <li>・園外活動については、4歳も十分にできるように、年間計画に入れていく。同時に幼稚園生活の中での発達を考慮し、学期ごとに見直しを行うことで各学年の活動が適切であるかを確認する。</li> <li>・『人の話を聴くこと』『話すこと』について、教師の話し方や表現方法について幼児に適切であるか考えあう機会を作るため、公開保育を積極的に行い園内外からの様々な視点で研修できるようにする。</li> <li>・子育て支援の「遊び会」と園児との活動を深めていけるように内容の充実を図り、今後も遊び会指導員と共に幼児理解に努め連携して取り組んでいく。</li> <li>・保護者や地域の協力を得て園運営ができるよう、園の教育活動や園児の様子に合わせ、協力してもらえるよう家庭や地域に発信し働きかけていく。</li> </ul>
---

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 橋北こども

園

### 1 園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点1	コミュニケーション力のある幼児の育成	4
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・自分の気持ちをうまく相手に伝えることができない幼児が多かったため、身近にいる保育教諭が、一人一人の思いを受け止め、最後までじっくりと話を聞くようにしてきた。このようななかかわりを続ける中で、自分の気持ちが伝わる心地よさや安心感を味わうことができ、自分なりの言葉で伝えようとしたり、友だちやまわりの人の話を聴こうとする姿が増えてきた。</li><li>・自分から挨拶ができる幼児の育成に努めることで来園者や地域の方へも積極的に挨拶をしようとする場面がみられるようになった。</li><li>・いろいろなことに自信をもち、少人数の中だけでなく、大勢いる前でも自分の思いや考えを伝えていく力を養っていききたい。</li></ul>	
重点2	幼児の姿、発達に応じた教育・保育の工夫	3
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・今年度より、こども園になったことで、環境設定や見通しをもった教育保育を進めていくことについて職員で話し合いの時間をとった。また、子どもの姿を具体的に伝え合うことを通し、適切な手立てを検討できた。</li><li>・誕生会、夏季クラス編成、多目的ホールでの遊びなど活動の設定を行い、異年齢児が交流する機会を増やしていった。あこがれの気持ちややさしい気持ちが育っていった。</li><li>・園庭の使い方や異年齢のペアクラスなどを再考しながら、幼児の姿と発達に応じた物的、人的環境と子ども同士が互いに育ちあう教育・保育の工夫を考えていきたい。</li><li>・今後、園外へ積極的に出かけ、体力をつけたり、自然体験ができるようにしたい。</li></ul>	
重点3	地域の小学校、中学校や地域との交流の充実	3
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・小学校・中学校の行事に招待してもらったり、職業体験等で来園した生徒と一緒に遊んだり、触れ合う中で、親しみや憧れの気持ちを育むことができた。</li><li>・施設が移転したことで、小学校、中学校と距離が離れ、交流の機会が昨年度に比べ、減ったので、学びの一体化の場を通して、交流の機会を検討していきたい。</li><li>・敬老会、老人施設訪問などを地域の人とのふれあいで、様々な温かさを感じたり、いろいろな人とかかわる力へつながった。</li></ul>	

重点 4	子育て支援活動の充実	3
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・送迎時など日頃から保護者との会話を大切にし、信頼関係を築きながら必要に応じて家庭訪問や面談を行ってきた。その中で子どもの様子を知らせたり、成長を共に感じながら、保護者と子育てについて一緒に考えあうことができた。</li> <li>・おたよりやホワイトボード・HPで子どもの様子を知らせてきた。今後は、アンケートを参考に子育ての実態や悩み、家庭背景を把握し、啓発や相談に応じていけるようにもっと工夫したい。</li> <li>・子育て支援センターに来園した親子と挨拶したり、園庭で一緒に遊んだりする場面もあったが、積極的にかかわることが少なかったので、在園児との交流をもっととりいれていきたい。</li> </ul>	

## 2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> <li>・三滝公園など近隣の公園へ出かけたりして、四季折々の自然に触れる機会を増やし、自然に興味関心がもてるようにしていきたい。</li> <li>・歩く経験が少ないので体力づくりができるよう、グラウンドや多目的ホールの利用を念頭に、環境構成をしていきたい。</li> <li>・クラス、各年齢別打ち合わせなどを月1回を定例化し、教育保育内容やカリキュラムのすりあわせを行い、今年度作り上げた基盤をもとに深めていく。</li> </ul>
--

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 富田幼稚園

### 1 園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点1	健康な体づくりの推進	4
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が戸外で、幼児と一緒に積極的に体を動かすことで、全身を使って遊ぶ楽しさや心地よさを十分味わえるようになった。</li> <li>・幼児一人ひとりの特性に合わせて体づくりを計画し、環境を設定することですすんで戸外で体を動かす喜びにつながった。</li> <li>・園庭の固定遊具（ブランコ、雲てい、鉄棒、ジャングルジム等）だけでなく、自分なりに目標をもって挑戦できる遊び（竹ぼっくり、竹馬、なわとび、跳び箱等）を取り入れたことで、達成感を味わい、またチャレンジしようという意欲につなげることができた。</li> <li>・園外保育については、天候不良や行事等で日程が合わず、中止になることもあった。次年度は行事の精選や工夫を行い、計画的に進めていきたい。</li> <li>・栽培活動やクッキング、給食に関する食育活動など、年間通して取り組むことができた。健康な生活をおくることへの関心が深まった。</li> <li>・生活習慣については、個人差もある。幼児の実態を把握し、継続的に保護者に啓発・推進していくため、おたより発行や講演会などを計画したい。</li> </ul>	
重点2	家庭・地域との連携を図り、地域に開かれた園づくり	4
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・降園後、保護者とコミュニケーションをとり、園児の姿を丁寧に知らせることで、子どもの成長をともに考えたり、情報を共有したりすることができた。園の姿だけでなく家庭での幼児の姿を知り、幼児を多面的に捉え保育・教育をしていく事は重要であると感じている。今後も家庭と共に子どもの育ちを考えていけるようにしたい。</li> <li>一方で、園児の姿を伝えるだけでなく、保育のねらいや大切にしていることをどのようにして伝えていくとよいか、引き続き検討していきたい。</li> <li>・子どもの様子や園の取り組み、保育の中で大切にしていることをなどを、毎日ボードに記入したり、写真の掲示をしたり、おたよりの中で知らせたりしてきた。写真があることで、より子どもたちの具体的な様子がわかりやすいという保護者の意見もあったため、継続して取り組んでいきたい。</li> <li>・鯨船や木工教室、球根植え、素話や絵本の読み聞かせなど地域の方との触れ合いを通して、地域の方に親しみを持ち、自分たちが大切にされていることを感じたり、自分の町への愛着を持つ機会になった。</li> <li>・子育て支援は、地域の子どもたちと一緒に遊ぶサマーキッズデー等の行事を通して、園児と自然な形で触れ合い、異年齢交流をすることができた。今後も、園の様子を発信する場として大切にしたい。</li> </ul>	
重点3	「学びの一体化」をいかした教育の推進	3
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校との授業内交流や中学生の職業体験交流を通して、就学に向けた期待やあこがれを持つことができた。異年齢でかかわる力につながった。</li> <li>・保幼交流を繰り返し重ねたことで、互いに小学校へ行く仲間としての意識を持つことができた。</li> <li>・公開保育を行うことで、保幼小中に向けて、幼稚園の活動内容や大切にしていることを伝え、幼児教育の発信に努めた。</li> <li>・小中の公開授業に参加し、各学年の授業の様子をみたり、事後研修会にも参加したりして、子どもの各学年の姿の違いを知ることができた。</li> <li>・定期的に職員同士の「学びの一体化」の研修はもっているが、保幼小中共に目指す子どもの姿は同じではあるものの、年齢や学年によって、指導方法や取り組み方は様々である。今後は連続した学びについて話し合いが持てるようにしていきたい。</li> </ul>	

## 2 改善方針

### (重点1)

- ・園外保育の実施については、年度当初に行事の精選や日程調整しながら綿密に計画を立てる。身近に自然にかかわることができる地域資源（地区の公園や季節が感じられる場所）についても十分把握し、園外保育に取り入れていきたい。
- ・幼児一人ひとりの特性に合わせた体づくりがよりできるよう、戸外の環境設定の工夫やテラスなどの有効活用を計画的に考えていく。
- ・まず、教師自身が生活習慣リズムについての専門的な知識を学んでいく。保護者については、おたよりや講演会などを通して、生活リズムの有効性について知る機会を作り、子どもたちが健康に生活が過ごしていけるよう啓発していく。

### (重点2)

- ・保護者連携をすすめていく中で、具体的な幼児の姿や保育の中で大切にしていること、集団の中で育つ力など伝えていくと同時に、視覚情報として写真やホームページなど発信の方法を継続して工夫していく。

### (重点3)

- ・富田地区の子どもたちの育ちを保育園、幼稚園、小学校、中学校までの、先を見通して意識していく必要がある。各校園同士の交流や事後研を通して、互いの保育や教育内容をさらに、職員同士が知りあえるようにしていきたい。

## 自己評価書

四日市市立 海蔵幼稚園

## 1 園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点1	健康なからだづくりの推進	4
成果と課題	<p>○テラスでのトランポリンやミニサーキットの設定、固定遊具や縄跳びなどの補助道具の工夫により、一人一人の運動能力の向上ややる気につながった。しかし、大型サーキット活動が少なかったため、年間を通して計画的に行えるとよかった。</p> <p>○教師が率先して戸外に出ていき、鬼遊びやボール遊び・固定遊具・縄跳びなどを行うことで、幼児も楽しんで取り組むことができた。そして、体を動かして遊ぶことが好きな幼児が増えた。</p> <p>○全体活動での固定遊具やボール遊びや冬季のマラソンが、外遊びの苦手な幼児にも、積極的に戸外で体を動かして遊ぶ楽しさを知るきっかけとなった。</p> <p>○収穫祭で、園で育てた野菜を使ってクッキングすることにより、幼児に食べる楽しさや意欲が高まるとともに、食の幅も広がってきた。また、自分の食事を作ってくれる人への感謝の気持ちも幼児に育った。</p> <p>○健康や体に関する絵本の読み聞かせをしたり、健康な体づくりについて幼児と話し合ってきた。そのことで、幼児が自分の体に興味をもったり、健康な生活を心がけるようになった。</p>	
重点2	コミュニケーション能力の基礎の育成	3
成果と課題	<p>○教師が率先して笑顔で元気よく挨拶することで、声が小さかったり表情が硬かったりした幼児も、良い表情で挨拶ができるようになってきた。また、日常の会話の中や園外でも、挨拶やお礼を心から言える幼児が増えた。その場面を教師が認め褒めていくことで、他の幼児も場に応じた挨拶やお礼が自然にできるようになってきている。</p> <p>○一人一人の思いに教師がていねいに寄り添うことで、自分の思いを出すのが苦手な幼児も、表現したり伝えたりしようとする姿が見られるようになっていった。自分の思いを伝えたい気持ちが強く、教師や友だちの話を落ち着いて聞くことが難しい姿も見られる。</p> <p>引き続き、人の話をしっかりと聞くことの大切さ伝えていきたい。また、教師自身も子どもの声をしっかりと聞き、ていねいに答えるよう心掛けた。今後も、落ち着いて話が聞ける環境の工夫や手立てなどを探していきたい。</p> <p>○遊びや様々な行事の中で、みんなで作ってあげていく楽しさを感じられるよう、考え合ったり話し合ったりできる機会をたくさんもってきた。自分の主張をするだけでなく、友だちの思いに耳を傾けることで、みんなが気持ちよく楽しむことができたり、素敵なものができあがることを、体験をとおして幼児が味わうことができた。</p>	
重点3	保・幼・小・中・地域との連携	4
成果と課題	<p>○保育園交流の中で、進学先別のグループでの活動を多く取り入れたことは、就学後の仲間づくりにつながっていくと感じた。また、小学校での給食体験や、2年生・1年生との交流会は、就学への不安を取り除き、小学校への期待がよりふくらむ取り組みであった。また、今年度は特に4年生の総合学習の中で、何回も交流できた。回を重ねるごとに、幼児も小学生の優しさに触れ、安心感や憧れの気もちをより抱くことができた。</p> <p>○朝鮮幼稚園との交流では、互いの国や文化について知る良い機会となった。一緒に遊んで楽しかったという経験が、将来理解し合いつながりあえるきっかけとなるように、今後も大切に続けていきたい。</p> <p>○地域行事や老人福祉施設への訪問などを通して、幼児が地域に親しみ興味をもってつながることができた。また、シルバー人材センターふれあい農園の畑での野菜の栽培活動、地域セーフティネットの活動等では、地域の方々に温かく見守られ協力していただいていることを、幼児たちも感じることもできた。</p>	

重点4	子育て支援の充実	3
成果と課題	<p>○遊び会に来ている保護者や子どもに積極的に声をかけたり、在園児とも自然な形で交流できるようにしてきた。在園児との交流の回数を増やしたり、園行事への参加の機会を設けるなどしてきた。そのことで、未就園児の親子にとって、就園への期待や関心をもつ機会になったのではないと思う。また、在園児にとっても、小さい子とのふれあいをとおして、親しみをもったり、頼られることでの自信がついたりするよい機会となった。しかし、交流の時期や回数など、在園児の負担になる部分もあったので、見直しをし、改善をしていきたい。</p> <p>○遊び会に来園する保護者の中には、子育ての悩みや迷いをもっと話したいと思っている保護者もいたようだった。保護者の思いへの傾聴も、余裕を持って努めていきたい。</p> <p>○在園の保護者に、日常的に相談しやすい雰囲気づくりや、保護者の気持ちを聴き安心感がもてるよう努力してきた。子育ての悩みや、子どもへの思いを、たくさん聴くことができた。また、保護者同士がつながり、気楽に互いに交流できる場の提供を、今後も工夫していきたい。</p> <p>○幼児の様子や保育の中でのねらいなど、降園時やたよりなどでいねいに伝えてきたつもりだった。しかし、よく話す保護者とそうでない保護者ができてしまっていたことを反省する。どの保護者にも幼児の育ちを伝えていくとともに、わかりやすい伝え方や魅力あるたよりづくりを工夫していきたい。</p>	

## 2 改善方針

<p>○年々、幼児の体力や体幹の育ちが低下してきていることを感じる。体力づくりや体育のため、4歳児のときから、巧技台やミニハードル、トランポリンなどの器具を使った遊びを多く取り入れるなど、体幹を鍛えられるような遊びの工夫をしていきたい。また、歩くことも大切にして、園外保育を計画的に取り入れるなど工夫をしていきたい。</p> <p>○遊び会・保育園・小学校・中学校・地域など様々な交流の場をとおして、人に対する親しみの気もちと人とかかわる力を育てる機会を大切にする。しかし、日常の保育内容の深まりのために、行事の精選をしていく。</p> <p>○保護者への傾聴を大切にしてきたが、話す機会が少なくなってしまった保護者もいた。積極的に意識してこちらから話すように心がけていきたい。</p> <p>○分かりやすい保護者への伝え方を、たよりや話の中で工夫する。</p>
---



## 自己評価書

## 1 園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点1	遊びを通しての『学び』の充実	3
成果と課題	<p>○幼児が心動かしやってみたくなるような魅力的な環境となるように全職員で工夫しながら環境構成に取り組んできた。また、幼児の成長、発達に合わせて環境を変化させてきた。その結果、友だち同士で刺激を受け合ったり、誘い合う姿が多く見られるようになり、遊びを楽しむことで様々な力が付き、次の活動の意欲につながる姿が見られた。今後も職員間で意見を出し合い、子どもが自ら意欲をもって遊びに取り組めるように環境構成を工夫したりして支援していきたい。</p> <p>○園外保育や自然を取り入れた保育を通して、無理なく楽しく歩いて園外に出かける楽しさを味わえるように工夫したことで歩く力、体力の強化につながった。全園児で園外に出る中で、交通ルールや公共のマナーも経験を通して身につけていくことができた。お散歩マップの見直しやより計画的な園外保育の実施に向け今後も取り組みたい。</p> <p>○栽培活動や食育の面で保護者評価も上がっており、自ら積極的に栽培活動に取り組む幼児が増えたことが食の幅を広げることにもつながり、意欲的に食べようとする力が育ってきている。子ども達とともに、栽培計画と連動した食育計画を立てていくようにしたい。</p>	
重点2	高い自尊感情を持つ幼児の育成	3
成果と課題	<p>○入園当初より園生活の中でのルールを、絵本の読み聞かせや、人形劇、ロールプレイなどでわかりやすく知らせてきたことで子ども達の理解も進み、みんなで声を掛け合って決まりを守ろうとする姿が見られるようになってきた。今後も視覚的な方法を取り入れ子ども達にわかりやすく伝える工夫をしていきたい。</p> <p>○日常の保育の中で、それぞれの頑張っていることをさりげなく取り上げ認め合ったことで、「やってみよう」という気持ちが育った。また、友達が苦手なことも頑張っているところを自然に認め合えるようになり、友だち関係の深まりにもつながった。日々の生活の中で色々な気づきを知らせ合ってきたことで、誰にでも得意なこともあるし、苦手なこともあることに気づいてきている。ありのままの自分を受け入れられるような環境づくりをめざして今後も取り組みを続けていきたい。</p>	
重点3	地域・保護者との連携を密にした教育の推進	3
成果と課題	<p>○地域と連携し、園外保育(梅ちぎり、栗拾い)等、一緒に活動している。地域の自然の豊かさといきいきと活動する幼児の姿をタイムリーに伝えながら自分たちの住んでいる町の良さを知らせ、地域の行事に親子で参加できるように働きかけたい。年少児の園外保育も発達に応じて計画的に取り入れていきたい。</p> <p>○入園当初に学級懇談を持ち、自己紹介をしたり、子ども達のことを紹介したりしたことで、保護者同士も早くから言葉を交わし合い、つながりあうことができた。転入園の多い園であるので職員も意識して声をかけるようにし、保護者同士がうまくつながれるような橋渡しを心がけてきた。それにより、保護者同士のつながりも深まり、子育てについても話し合う姿が様々なところで見られるようになった。園からもその時々幼児の姿をタイミングよく伝え、関わり方も具体的に知らせながら、同じ願いをもって保育、子育てをしていけるように工夫し幼児の姿を話し合うことで保護者とつながっていききたい。</p> <p>○地域の方々にも温かく見守られ、情報交換し合って保育をしていくことが子ども達の安心安全な生活につながった。また、保・小・中との連携の充実が長いスパンで子ども達の成長を見通すことにもつながっている。小学校への途切れのない接続に向け今後も連携の充実をめざしたい。特に小学校との交流の強化をめざしたい。</p>	

重点4	学び合い、聞きあい互いに高め合える職員集団の形成	3
成果と課題	<p>○職員数の多さを強みととらえ、より多面的に幼児を見て指導法を考え合ってきたことで、幼児に対して柔軟な対応ができ、良さを伸ばしたり、課題解決に向けてのより良い関わりにつながった。</p> <p>○学びの一体化の中での公開保育や、外部講師を招いた公開保育を各クラス年間1回程度行い、研修の機会を持ってきた。保育後の研修会やアンケートなどで、幼児の発達に応じた支援の在り方や活動の場面における適切な指導について多面的に考え合い、研修を深めることができた。今後も計画的に公開保育を実施していきたい。</p> <p>○研修会に積極的に参加し、職員の資質向上に努めることができた。また、還流報告の機会をつくり、職員で再度学びあうことで、教職員の意識の高まりにつながった。</p> <p>○幼児が興味を持つような製作の教材研究や手遊び、表現遊びについても学び合い、幅を広げあう場を持ったことで幼児の活動の発展につながった。今後も幼児が魅力を感じるような教材研究を続けていきたい。</p>	

## 2 改善方針

○広い園庭をより機能的に有効に使えるように移動遊具の使い方や組み合わせについて研修を深め、安全にのびのびと充実して遊べる魅力ある環境構成づくりに取り組む。教材研究や公開保育などの研修の機会を有効活用し保育力の向上と保育の幅を広げることをめざす。

○きめ細やかな幼児の内面理解をめざし、丁寧な記録を取り、それを園内研などで提案し、皆で分析することで共通認識を図る。公開保育の実施回数を増やし、外部講師の指導を受けることで職員のスキルアップを図れるように計画的に研修を実施する。

○地域の自然を生かした教育や栽培と連動した食育の充実を家庭と連携しながら推進していく。

○様々な課題に対して、園内だけでなく保護者や地域、関係諸機関と連携して課題解決に取り組んでいく。

## 自己評価書

四日市市立 内部幼稚 園

## 1 園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点1	健康な心と身体の育成	3
成果と課題	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣では、毎日教師も一緒に手洗いうがいをしたり、身支度などていねいにかかわり、積み重ねてきたことで身につけてきた。</li> <li>・挨拶は教師の方から元気に気持ちよく行えるようかかわってきた。園児からも元気に挨拶をし、登園するようになった。</li> <li>・教師も一緒に体を使って走る、跳ぶ、投げる、蹴る、くぐるなどのいろいろな動きのある遊びをすることで、戸外遊びを好む幼児が増え、丈夫でしなやかな体になってきた。また、竹馬の挑戦、水や積み木など重いものを運ぶ経験やいろいろなリズム体操をすることで、体力と意欲が育ってきた。</li> <li>・食への関心では、栽培活動での野菜の収穫体験を通して、育てることから食べるまでの一連の体験をしたことで食への関心が高まった。さらに、食べる意欲が高まり、幼児同士が意識しあい、苦手なものでも食べられる幼児が増えた。</li> </ul> <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園外保育の計画を早めにし、歩く経験を保育にもっと取り入れていくとよかった。また、交通ルールや公共のマナーなども身につけていきたい。</li> <li>・日常であまり使わない動きが経験できる巧技台やジャンピングなどを使ったサーキット遊びをもっと取り入れていきたい。</li> <li>・好き嫌いが多い幼児には、引き続き家庭と連携しながら取り組んでいきたい。</li> </ul>	
重点2	コミュニケーション力の育成	4
成果と課題	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園が安心していられる場所であり、ありのままの自分が出せるよう、教師のかかわりや環境構成に配慮し、工夫してきたことで、のびのびと過ごす幼児が増えた。また、自分の思いをだし、言葉の数が増えてきた。</li> <li>・友だちと遊ぶ中で、思いが合わない経験をし、相手の思いに気づくことや少し我慢をすること、一緒に考えること、思いを合わせることなど、自分だけでなく友だちや集団の中で過ごしている実感をたくさん感じられるようになった。</li> <li>・運動会や発表会の取り組みで、一人一人が自分の思いや考えを出し合い、幼児同士の話し合いを十分にもったことで、表現する気持ちよさを感じ、大きな自信につながった。仲のいい友だちやクラスの友だちとのかかわりだけでなく、クラスを超えたグループ編成をするなど工夫をしてきたことで友だち関係の幅も広がった。</li> </ul> <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年少児では、安心して自分の思いをだし、仲良くなった友だちと遊びを進めていく姿になってきたが、思いが合わなかった時、ついその場を仲良くおさめるかかわりになってしまっていたと反省する。その時どんな気持ちだったのか、しっかりと気持ちを受け止めつつ、相手はどんな気持ちだろうか、どうやって気持ちを表現するとよいか等、一緒に考える援助ができるとよかった。今後は、幼児の気持ちを育てていくという意識を持ち、研修を深めていく。</li> <li>・集団生活の中で、自分の思いを聞いてほしい、共感してほしいという気持ちが強く、その幼児の思いを十分に受け止めるとともに、友だちや教師の話聞く姿勢と意識を持てるようにしていきたい。</li> </ul>	

重点3	学びにつながる意欲の育成	4
成果と課題	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごっこ遊びでは、幼児が興味を持ったことを思い切り楽しめるよう環境を設定したり、場面に応じて教師も幼児の気持ちになって楽しむようにしてきた。そのことで、幼稚園は楽しい、友だちと一緒に楽しい、もっとこうしたいなど、意欲的な姿が見られるようになった。</li> <li>・幼児の興味や言葉などから、教材や環境の工夫をしてきたことで、幼児が自ら考えたり試したりして、発見につながるなど試行錯誤の経験がたくさんできた。さらに、次の遊びへの意欲へとつながった。</li> <li>・当番活動では、教師が促すだけでなく、待つかわり、自分たちですするという責任感を感じ、友だち同士で当番の役割を声を掛け合うなど積極的な姿が見られるようになった。</li> </ul> <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集団の中で一対一の対応に追われることもあったが、「今どうするといいいのか」「次はどうだったかな」など幼児自身に考えさせる言葉かけをし、幼児が自分から考えて動けるようにしていきたい。</li> <li>・活動の中で幼児に学ばせたいことや経験させたいことは何か、というねらいを、教師自身が具体的に持つようにする。活動をしてみて、ねらいは達成できたのかを振り返り、次の活動に取り組んでいけるよう、職員間でしっかりと話し合っていく。</li> </ul>	

重点4	保護者・地域との連携・協働	4
成果と課題	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の姿について職員間で話し合い、共有できたことで、保護者に小さな成長を伝えながら共に喜びあえる関係ができたことはよかった。</li> <li>・畑の移転があり、地域の方と畑の整備を行うとき保護者にも呼び掛けたところ、協力、参加していただいた。幼児を中心とした、保護者と地域とが連動していくいい機会になり、今後もこのような活動を続けて、地域に根差した幼稚園づくりを目指していく。</li> <li>・保幼小中の交流では、職場体験に来た中学生に親しみを感じたり、給食体験は小学校へ行く期待が膨らむいい経験になった。保育園との交流は、地域に友だちがたくさんいることを知り、次に会う楽しみも増え、入学し顔見知りの友だちがいることで安心して小学校にすすめると思われる。</li> <li>・保護者がPTA活動に協力的であり、園児が生き生きとする活動が経験でき、よりよい園運営がなされた。</li> </ul> <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の交番や消防、福祉施設やまちかど博物館など、もう少し幅広く交流できるとよかった。地域に出かけることで、四日市や内部地域を知る機会になり、地域資源を生かす取り組みを今後も考えていきたい。</li> <li>・地域に温かく見守られ、育てている実感を感じ感謝の気持ちに変えて、次は自分たちから地域にかえしていく、地域を元気にしていく、地域のためにできることはないかを職員も一緒に考えていきたい。</li> </ul>	

## 2 改善方針

- ・職員間でお互いに保育公開し、検討する園内研修など、研修の工夫をしていく。
- ・新教育要領になるにあたり、何を大切にすべきか、どんな力をつけていくか、具体的に明確にし、それぞれの立場から意見を出し合い、園内研修へ取り入れていく。
- ・就学前教育で何が大切なのか、基本的な生活習慣や生活リズムなど、身につくようにするには、具体的に日々の保育でどんな援助が必要なのか考えあっていく。
- ・保護者に安心してもらえるよう園での様子をたくさん伝えられるように努力をする。（降園時の話、ホワイトボード活用、おたより配布、掲示物など視覚的にわかりやすいように）
- ・園外保育や畑の活動の大まかな年間計画を立てる。その計画を園全体で把握し、実施できるようにする。
- ・保育の中での絵本の活用方法について検討していく。

## 自己評価書

四日市市立 川島幼稚 園

## 1 園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点1	健康な身体づくりをすすめる	3
成果と課題	<p>◎基本的な生活習慣          &lt;保護者アンケートの結果&gt; A…「そう思う」と回答した保護者の％          ○手洗いうがいをすすんでしますか A. 75％          ○自分から日常のあいさつができるようになりましたか A. 38％          ・ 基本的な生活習慣に関して、個人差に配慮しながら丁寧にかかわり、身につくように援助してきた。さらに家庭と連携を図りながら、幼児につけたい力を共有できるようにする。          ・ 日常のあいさつでは、教師もすすんであいさつするように心がけてきたが、さらにあいさつを心地よいと感じられるような関係づくりに努めていく。</p> <p>◎全身を使って遊ぶ活動          ○戸外で遊ぶことが好きになりましたか A. 71％          ○体力がついたと思いますか A. 79％          ○歩くことで脚力がついたと思われますか(登降園 園外保育等) A. 71％          ・ 戸外遊びを好む幼児が多く、体を動かして遊ぶ楽しさを感じることができた。また遊びの楽しさが伝わるようにしてきたことで、室内遊びを好んでいた幼児も、すすんで戸外で遊ぶようになった。しかし、園内の環境を十分活用できていない点もあり、遊びが深まったり広がったりするためには、環境構成の工夫とともに、かかわり方を見直していく必要がある。</p> <p>◎食育活動          ○きれいな食べ物でも食べようと努力する姿が見られますか A. 92％          ・ 畑の栽培活動や毎月の収穫祭を通じて、収穫や食べる喜びなどを感じることができた。また、地域行事や運動会の題材にも取り入れ、年間を通じて食育活動をすすめることができ、食への関心が高まった。苦手な食材がある幼児も意欲的に食べようとする姿がみられた。</p>	
重点2	自分で考え行動する力や人とかかわる力を育てる	3
成果と課題	<p>◎自分で考え、行動する力          &lt;保護者アンケートの結果&gt;          ○自分で考え、自分で行動するようになりましたか A. 71％          ○よいことや悪いことがわかるようになりましたか A. 71％          ○遊びを試したり工夫したりして遊びますか A. 75％          ・ 遊びや生活の場面をとらえて、幼児の中から考えを出し合うことや、失敗を恐れないうこと、根気よくとりくむことなどを大切にしてきた。そのことから自分たちで考えて遊びをすすめる姿が見られるようになった。          ・ 困った時に教師からの助けを待つ姿から、どうしたらよいかを自分から聞きにくる姿に変わってきた。自分の思いを表現したり、言葉で伝えたりできるように継続して関わってきた成果でもある。しかし中には指示を待つ姿や、自ら行動することに不安を感じる姿もあるので、職員間で幼児の姿を共有し、自分で考え行動する力につながるような援助について、十分話し合う必要がある。</p> <p>◎人とかかわる力          ○友だちが増えましたか A. 92％          ○人の話を聴こうとしますか A. 46％          ○相手にわかるように話したり、表現したりするようになりましたか A. 63％          ・ 混合クラスのよさを生かし、食事の時間を一緒に過ごしたり、ふれあい遊びをしたり、運動会や発表会などの行事を通して、意図的に異年齢のかかわりを持つようにしてきた。そうしたことから、幼児間のつながりや親しみが持てるようになり、自尊心や相手を思いやる気持ちが育ってきた。          ・ 幼児の中の葛藤や、友だちと意見がぶつかり合う場面をとらえて、どうすればよいか考えたり、相手の思いに気づいたりできるようにかかわってきたことから、自分の気持ちに折り合いをつけ、思いを伝えようとする姿に変わってきた。しかし、強く自己主張する姿もあるので、人とかかわる力をつけていくための場の設定や援助の仕方について、さらに考えていく必要がある。</p>	

重点3	家庭や地域との連携を深める	3
成果と課題	<p>◎家庭との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育参加や誕生会など、園での姿を保護者に見てもらうことで、成長を喜び合うことができた。</li> <li>・ホームページやたよりなどで園の教育内容を発信したり、送迎時には保護者と子育てについて話したりしてきた。職員間も子育てについて保護者の思いに寄り添えるように情報の共有を行うようにした。さらに、降園時のふれあいタイムを活用し、日々の幼児の姿を伝えたり、保護者の思いを聞いたりして、連携を深めていく必要がある。</li> </ul> <p>◎地域との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方に行事に参加してもらったり、地域の環境を生かした園外保育を行ったりしたことから、様々な経験ができ、保護者にとっても幼児にとっても貴重な機会となった。</li> <li>・地域防犯の講演会では、子どもの安全について共通認識が持てた。今後も災害時の安全など、保護者とともに研修をしていきたい。</li> <li>・地域の方の力を借りて、環境整備や行事にかかわっていただいたことで、職員だけでは難しいことも、計画・実践することができた。</li> </ul>	

## 2 改善方針

- ・混合園として、4、5歳児がかかわりあう時間(ふれあい遊び、運動遊びなど)を計画的に取り入れる。
- ・遊びの中での学びや幼児が育ちあう姿など、明らかにできるよう園内研修の方法を工夫する。
- ・環境構成や援助の仕方について、実践記録や写真・ビデオで活用した園内研修を行う。
- ・職員連携をより綿密に図っていけるように、年間計画や月案、週案など細かく共通理解できるようにし、PDCAサイクルが円滑になるようにする。
- ・家庭や地域と共に、生活リズムや食の大切さ、子育ての楽しさを感じられるような機会をもち、職員や家庭の教育力を高めていく。
- ・家庭での姿を考慮し、幼児につけたい力は何か、園についてきた力は何かなどを、家庭に発信していく。

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 神前幼稚 園

### 1 園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点1	コミュニケーション力を育む教育実践の推進	3
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・全職員で幼児を迎え、率先して気持ちよく朝の挨拶をしたことで、元気に挨拶をする幼児が増えたり、友だちと朝の出会いを喜び合ったりする姿が見られるようになった。今後も自分から進んで挨拶ができるように、家庭とも連携して取り組みを進めていきたい。</li><li>・友だちを大切に思い気にかける姿があるが、自分本位な言葉で強く言ってしまう姿もある。相手にとって心地よい言葉を一緒に考え、かかわっていく必要がある。</li><li>・自分の思いを言葉で表現したり、話す嬉しさや聞いてもらう喜びが感じられるような活動を行ったりすることを大切にしてきた。その結果、自分なりの言葉で思いを伝えられるようになってきた。</li><li>・子どもたちが聞きたくなるような話し方を教師が工夫したり、聞く姿勢について話したりしてきたことで、聞きたいという気持ちが少しずつ育ってきた。今後も相手の話を聞く姿勢を育てていきたい。</li></ul>	
重点2	健康な心と体を育む	4
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・マラソンや固定遊具に興味を持ち、友だちと一緒に楽しんだり、刺激を受けて挑戦しようとしたりする姿が見られた。苦手なことや難しいと感じることに、継続して取り組む姿が見られ、達成感を味わうことができた。</li><li>・戸外遊びを通した体力づくり、栽培・クッキング活動を通した食育活動を進めてきたことで、健康な体を育むことができた。月1回、園で育てた野菜を使った収穫祭を行うことで、様々な食材に触れ、苦手なものも食べてみようとする姿が見られ、食べる量や食べられるものが増えた。</li><li>・教師自身が遊びたい気持ちを引き出す十分な環境構成ができなかった。環境構成の研修などを通して、自分自身の環境づくりを見直すことができたので、幼児の楽しみや気づきをもとに、遊びがより充実するような環境づくりを今後も心掛けたい。</li></ul>	
重点3	共に育ち合う教育実践の充実	3
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・混合クラスの特徴を生かすために、4歳児、5歳児と一緒に「わらべ歌遊び」や「ふれあい遊び」をする機会を意図的に設けたことで、楽しみながら異年齢の友だちと交わって遊ぶ姿が増えた。</li><li>・混合クラスではあるが、活動によって4歳児、5歳児を分けることで、発達の保障をすることができた。しかし、今後もよりよい混合クラスの保育内容の検討を行っていく必要がある。</li><li>・自ら選んでする活動の時間では、4歳児、5歳児が混ざっているからこそ、年齢関係なく、気の合う友だちと遊ぶ姿が見られ、自分らしく遊びを楽しむ姿があった。また、憧れや思いやりの気持ちを育むこともできた。</li><li>・職員間で、子どもの様子を話し合ったり、指導計画を見合ったりする中で、共通の思いで教育活動を進めることができた。</li></ul>	



重点 4	人権同和教育の充実	4
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員間で幼児の行動から、その背景にある思いは何かについて話し合った。幼児の思いに気づき、愛情を持って接することで、幼児自身も自分や友だちを大切に思う気持ちが育ってきた。</li> <li>・友だち同士でお互いの素敵な所を言い合う機会作りを行なった。簡単な言葉ではあるが、友だちが自分を認めてくれることは大きな喜びとなり、自信を持ち、意欲的に活動する姿へとつながった。</li> <li>・職員間で一人ひとりの幼児の姿について、気づいたことや課題、成長した姿などをその都度話しあい、かかわりを探ってきたことで、職員の幼児の見方や声かけが変わり、幼児の姿にも変化が見られた。</li> <li>・人権の研修に参加し、教師自身のものの見方について問い直すことができた。その気づきが、子どもたちへのかかわりの変化へとつながった。</li> </ul>	

重点 5	家庭や地域とともに進める教育活動の充実	4
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の家庭生活と園生活の連続性を踏まえて、家庭地域との連携を進めることができた。</li> <li>・園外保育や保育園、小・中学校との交流、地域ボランティアの絵本読み聞かせなど、地域の中での教育活動を充実させることができた。地域の方にしてもらえばかりではなく、感謝祭を行ったり、地域の方に手紙を届けたりするなどして、子どもたちからかかわりを持つ機会を設けた。「見守ってもらえている」ことを感じることもできたので、今後は自分から感謝の気持ちを感じられるようにかかわっていきたい。また、小学校との交流では、内容だけでなく、事前に子どもの姿を話し合ったことで、充実した交流となった。交流を重ねることで、人とかかわる力が育ってきた。</li> <li>・保育園、小・中学校の先生方と研修を共にする中で、公立幼稚園の教育を知ってもらう機会があり、何度か話し合えたことがよかった。</li> <li>・ホームページに日々の幼児の姿や活動のねらいを載せたことで、保護者に幼稚園教育を発信することができた。</li> </ul>	

## 2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが夢中になって遊びこむ環境構成、混合保育の特性を生かした保育内容の充実について、今後も職員で検討していく必要がある。</li> <li>・子どもたちに自ら考えて行動する力を育てていくために、幼児の発達にあった声かけやかかわりを考え、工夫していく。</li> <li>・初めてのことには、失敗を恐れ「やりたくない」と言う幼児もいる。幼児が安心して意欲的に取り組める環境づくりを今後も考えていく。</li> <li>・自分を表現することができるようになってきた。今後も友だちの様子を見たり考えたりしながら、相手の立場を考えられるよう、まずは教師が思いを十分に聞くようにする。また、職員間で具体的な幼児の姿を出し合い、手立てを共に探っていく。</li> </ul>
--

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 三重幼稚園

### 1 園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点1	友だちのありのままの姿を受け入れられる幼児の育成	3
成果と課題	<p>○子どもたちの思いを聞き、それを相手の前で伝える機会を多く設けたことで、違いや友だちの思いに気付ける子が増えた。順番を守ることや、グループで話しあって決めていく活動につながっていった。</p> <p>○日々の保育の中で、友だち同士の良いところや、一緒に遊んで楽しかった気持ちなどを、皆で共有できるように教師がかかわることができた。その結果、友だちの思いを受けて、どんな気持ちなのかを相手の立場にたって考えられる年長児の姿や、困っている友だちがいると、「どうしたの?」と自分から相手に声をかける年少児の姿が増えた。</p> <p>自分の思いを伝えたり、相手の立場にたつことの大切さも、引き続き伝えていきたい。</p>	
重点2	友だちと一緒に、思いきり身体を動かして遊びを楽しめる幼児の育成	4
成果と課題	<p>○ケイドロなど集団での遊びを楽しむ姿が多く、教師も一緒になって遊び、経験や体験が広がるようにかかわった。</p> <p>○自然を感じられる行事を計画的に取り入れ、体験と共に心も豊かになり、歩く力や持久力の向上にもつながった。マラソンの取組も積極的に行ったことで、体力向上につながった。</p> <p>○集団での遊びを通して、異年齢で遊ぶ機会も十分にもてた。発達段階を踏まえ、計画的に遊びを構成し、活動のねらいを明確に持って、「みんなで遊ぶ楽しさ」が十分に味わえる様に、引き続き取り組んでいく必要がある。</p> <p>○年間を通して継続的に固定遊具に取り組めるように工夫し、誘いかけて取り組んできた事で、身体を動かす事に積極的でなかった幼児も意欲的に楽しむ姿が見られるようになった。室内での活動を好んでいた幼児も戸外遊びが好きになり、「継続的な取組」の大切さを再認識した。</p>	
重点3	楽しく豊かに自然とかかわる幼児の育成	3
成果と課題	<p>○虫を取ったり、草花を集めて遊んだり、色水を作ったりして自然物を使った活動を教師も一緒になって楽しむことで、子どもたち自身が色々考えて自然物を遊びにとり入れる楽しさに気付くことができた。夏に色水遊びで遊んだ経験が、冬の色氷作り遊びにつながるなど、1年を通して自然物で遊んだ経験が繋がっている姿があった。</p> <p>○図鑑や月刊絵本の生き物のページなど、見たものや捕まえたものを調べようとする姿が見られた。幼児が見やすい位置に図鑑コーナーを設定したり、友だちと虫かごを見て話ができるように環境設定することで、子どもたちが自らが、生き物に親しむ楽しさを味わうことができた。</p> <p>○教師も、自然物に対する知識を身に着けていくことがとても重要だということを改めて感じた。職員間で、自然物を取り入れた遊びや活動の技術を話しあい、共有する時間を作っていくことが大切である。</p>	

重点 4	学び合い、聴きあい、互いに高めあえる職員集団の形成	4
成果と課題	<p>○子どもの姿について、学年を超えて話し合えたのは、子どもの姿を多面的にとらえることにつながって良かったと思う。思ったことを互いに話し合いやすい雰囲気をつくれた。</p> <p>○異年齢間や未就園児との交流についても定期的に位置づけているが、より計画的に取り入れ、カリキュラムに位置づけられるよう工夫していく。</p> <p>○研修会に参加し学んだ事を還流報告して、意見交換を重ね、互いに学びあう時間を確保して、互いの視野を広げたり、指導技術を高める事に繋げていく必要がある。</p> <p>○研修を重ねる中で、感じあい、持ち味を生かしながらも、指導の方向性にずれが生じないように常に研修の中で、振り返り、必要に応じて、軌道修正していくことも大切である。</p>	

## 2 改善方針

<p>●職員の連携や日々の保育の振り返りについては互いが意見を出し合い、環境設定も含めて翌日の保育をよりよく展開できるように工夫したり、検討することが出来たが、一人ひとりの発達保障についてはより細かく検討し合って、指導法を具体化いく必要性を感じる。</p> <p>●子どもたちの姿をありのままに受け止めて、どの子にとっても園が居心地の良い安心できる場になるように環境を整えていけるように引き続きしていきたい。多様な経験を重ねる中で、自分が大切な存在であると感じ、友だちと色々なことに挑戦する気持ちや諦めないで頑張ろうとする気持ちが生まれるように引き続き援助していきたい。</p> <p>●研修や実践報告会など、各自が参加して学んだことを報告し合う時間の確保が難しかったので、意識して設定したい。</p> <p>●一人ひとりの発達や経験の差を見極めたうえで、楽しく遊ぶ中でより身体を使って思いきり遊べるように環境設定や遊びの工夫をする。毎日のチャレンジタイムなどを活かし、挑戦する気持ちを友だち同士で高め合いながら、身体の使い方や力加減などが身につく環境づくりを目指す。</p>
--

## 自己評価書

四日市市立 保々幼稚 園

## 1 園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点1	夢中になってあそぶ《学ぶ》	4
成果と課題	<p>○年度当初、苦手なことになかなか挑戦することができない幼児の姿が見られた。そこで、今年度は「保々地区18年間の育ちのプログラム」の『やってみる』の視点に重点をおいて取り組みを進めてきた。日々の保育環境や行事のねらいを考える際にも『やってみる』を意識して取り組んだ。特に、運動会に向けた取り組みを進める頃から「やってみる」という気持ちが膨らみ、自信をもち、様々なことに自ら挑戦する姿が多くなった。また、子どもが興味をもてるよう環境設定を工夫したことで、友だちと一緒にじっくり取り組む姿、応援し合う姿も多くなった。（保護者へのアンケートの結果：「遊びの種類や生活経験が増えましたか」そう思う78%）</p> <p>◎幼児のやってみようとする姿に、教師自身『じっくり』と構えることが大切である。</p> <p>○視点をしばって保育を振り返り、次の取り組みを計画することを継続してきた。そのことで、職員間でも、ねらいや手立てを共有することができ、より幼児の成長につながった。</p> <p>○友だちに自分の思いや考えを伝えたり、友だちの気持ちに気づいたりする機会を大事にしてきた。自分の意見や行動を友だちに受け止めてもらえたと感じたことで、相手を思いやろうとする気持ちをもち、行動する力につながってきた。（幼稚園・こども園の教育に対するアンケートの結果：「友だちが増えましたか」そう思う87%）</p> <p>○異年齢の日々のかかわりの中で、自信、憧れ、思いやりの気持ちが育まれた。</p> <p>◎少人数のため、遊びが広がりにくい面もあった。環境の準備や遊びの提案など、今後も工夫していくことが必要である。</p>	
重点2	保・幼・小・中・高との連携の充実	3
成果と課題	<p>○保育園交流では、年間計画を立て、その都度、事前・事後に話し合いを持ち、指導計画を作成した。そのことにより、具体的な活動の流れをお互いに見通すことができた。また、ねらいがはっきりしたことで、園児同士の関わりを深めることができた。年度初めの年間計画以外にも、交流する機会を多く持つことができた。そのことで園児同士が、交流以外の場でも出会ったときも名前を呼び合う姿や、大勢で遊ぶ経験に自信を持つ姿につながった。</p> <p>◎今後も園児同士の交流や職員間の交流をより多く持つようにしていく。</p> <p>○小学校の先生に出前授業（跳び箱を使った遊び）を行ってもらうことができた。小学校の先生に親しむ機会となり、一方では幼児の姿（発達）を知ってもらう機会となった。</p> <p>○保・幼・小・中で公開保育、公開授業を行うと共に、学期に一度、保・幼・小・中全職員で、子どもたちに「つきたい力」やそのための具体的なかかわり方を学び合った。子どもたちの育ちと手立てをつないでいく研修となった。</p> <p>◎今後もなめらかな接続のために、職員の学ぶ姿勢を大切に連携していく。</p> <p>◎保・小・中・高との交流において、お互いのねらいをはっきりと確認し合うことが必要である。</p>	

重点3	保護者・地域との連携と協働	4
成果と課題	<p>○保護者との対話をどの職員も積極的に持つよう心がけた。幼児の成長をともに喜ぶ場、保護者の悩みや子育てへの願いを把握する場となった。</p> <p>○ふきのとう（保護者が集い、人権や子育てについて語り合う場）や保護者研修会は、保護者が自ら参加しようという姿につながり、安心して話せる場となってきた。（保護者へのアンケートの記述：「どの先生とも話しやすい。親として安心している。」「子どもだけでなく、親も学べる。考えさせられる機会をたくさん作っていただき、本当によかった。」）</p> <p>◎今後も子どもの姿を通して、保護者同士をつなぐかかわり方を工夫する。</p> <p>○「育ちのプログラム」に基づいて、園の取り組み、幼児の成長した姿などを発信できるように、おたより・写真の掲示を工夫し努めることができた。</p> <p>◎「幼稚園は『育ちのプログラム』についての発信をしているか」の園独自の保護者アンケートをとったところ、（そう思う70%・おおむねそう思う30%）であった。より関心を持ってもらえるような発信の仕方を工夫する。また、地域の未就園児の保護者への発信も、回数や内容など工夫する。</p> <p>◎保育参加の方法も工夫し、保護者が普段の幼児の姿を知ることのできる機会を作る。</p> <p>○「保々の自然に親しむ会」が保存している里山に出かける機会を持つことができた。自分の住んでいる地域の豊かな自然を知ることになった。</p>	

## 2 改善方針

○幼児の「やってみよう」とする姿に、教師自身『じっくり』と構え、幼児の自信につながる取り組みを進める。

○幼児一人一人の姿を踏まえ、経験や学びを保障するために、視点を絞って、日々の教師間の話し合いの時間をもつ。教師間で、振り返りを共有し、次の活動のねらいや手立てにつなげる。

○保幼小中高での交流の機会に、お互いのねらいを確認し合う。

○園・学校のなめらかな接続のために、職員の学ぶ姿勢を大切に連携を図る。

○子どもの姿を通して、保護者同士をつなぐかかわり方を工夫する。

○幼稚園の教育の取り組みについて、より多くの保護者に関心を持ってもらえるよう発信の方法を工夫する。また、地域の未就園児の保護者への発信も、回数や内容など工夫する。

○保育参加の方法を工夫し、保護者が普段の幼児の姿を知ることのできる機会を作る。

## 自己評価書

四日市市立 下野幼稚園

## 1 園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点1	健康な心と体づくり	4
成果と課題	<p>・ 教師は日々、幼児達につけたい力を考え、園庭やテラスに幼児自らが体を動かしたくなるような環境を構成してきた。また、鬼遊びや忍者遊び、リレー、サッカーなど、遊びの中でも楽しみながら体を動かしていくことができた。常に幼児の姿に合わせて環境や援助を変え工夫してきたことで、4月に比べ、幼児達の体力もつき体の使い方が上手になってきている。園庭のあちこちを駆けめぐるマラソンやチャレンジタイムを取り入れ、楽しみながらいろいろな体を使った活動を経験することができた。保護者アンケートでも97%の保護者が『戸外で遊ぶことが好きになった』と感じている。また、計画的に園外保育にも出かけてきた。今後も、保護者の力も借りながら、地域の自然に触れる機会や歩く経験を充実させていきたい。</p> <p>・ 生活リズムについては、今年度もPTAの保護者研修会で『早ね・早起き・朝ごはん・朝うんち』のアンケートをもとに、話をする機会を作ったので、家庭にも意識してもらうことができた。園では手洗い・うがいなど基本的な生活習慣は繰り返し伝え取り組んできた。又、歯磨きを、丁寧に磨くことの大切さが意識できるよう配慮した。</p> <p>・ 苦手な食べ物が多い幼児がいたが、自分の体にとって必要なものであることを伝えたり、園での栽培・クッキング活動などを通してみんなで一緒に食べる楽しさを味わう中で、自分から野菜が食べられるようになってきている。アンケートでも91%の保護者が『嫌いなものでも食べようと努力する姿が見られる』と回答している。</p>	

重点2	コミュニケーション能力の育成	3
成果と課題	<p>・ 幼児達から出てきた遊びが継続して楽しめるよう、教材研究や環境設定を工夫してきた。</p> <p>・ 4歳児は、友だちと一緒にごっこ遊びなどで喜んで表現する姿がある。教師は一人一人の気持ちを丁寧に受けとめ一緒に考えていくことを大切にかかわってきた。4月当初は、なかなか自分の気持ちを言えない姿が見られたが、2学期後半からは友だちと互いにのびのびと表現する姿へと変わってきている。</p> <p>・ 5歳児は『気持ちカード』を用いて自分の思いを表現する場を作ってきた。またグループ活動の中で子ども同士で考える場面や協力して生活を進めていく経験を積み重ねてきたところ、だんだんと自分の思いを言葉で伝えようとしたり、相手の思いに気づいたりするようになってきた。遊びの中でも、友だちに伝えたいという思いでかわっていき姿があった。トラブルの時などは、一人一人の気持ちに寄り添ってかわってきたが、今後も教師の援助について常に振り返り、見直していきたい。</p> <p>・ 地域とのかかわりでは、未就園児との交流や保育園との3園交流、小学校との合同避難訓練や給食体験、中高校生の保育実習など様々な機会も持ち、親しみをもってかわっていきことができた。また、SL乗車体験や園外での梨の実拾い・梨狩りなどの体験活動を通して場や相手に応じた言葉や態度を学ぶ機会になった。</p>	

重点3	学びにつながる意欲の育成	4
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チョウの幼虫やチャボの世話、季節に応じた栽培活動など、身近な自然に触れ合う体験を大切にしてきた。虫・草花、自然の変化など幼児が感じたこと、気づきを受けとめクラスで伝えあったり、展示物など環境を工夫したりしてきた。幼児の自然に対する興味・関心が高まってきた。</li> <li>・雲梯や鉄棒、縄跳びや竹馬・竹ぽっくりなど、挑戦したり粘り強く取り組む体験ができるよう、環境を工夫した。教師も一人一人に応じた援助を進め、その中で幼児も意欲的に取り組み、満足感や達成感を味わうことができた。</li> <li>・製作の遊びでは、自分がイメージしたものをどうしたら作れるか考えたり工夫したりする場面があった。教師がすぐに答えを伝えるのではなく、共に考え、発見する楽しさを大切にしてきた。</li> <li>・水、泥、泡、小麦粉粘土など様々な感触遊びを取り入れた。感覚を楽しみ、その変化にも関心を寄せることができた。</li> <li>・保護者アンケートでは、『遊びの種類や生活体験がふえましたか』『遊びを試したり工夫したりして遊びますか』の項目で100%と評価が高かった。今後も、職員間で話し合い、心揺さぶられる豊かな体験ができる保育内容を考えていきたい。</li> </ul>	

重点4	家庭・地域・保小中との連携	3
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭との連携では、降園時の保育説明やホワイトボードを使って伝えるだけでなく、直接保護者との会話を持つよう心掛けてきた。幼児の姿を伝え、保護者の悩みや相談に応じできた。幼児の成長を保護者と共に感じ、喜んだり、考えたりすることができた。幼稚園教育で大事にしていることなど、降園時などに伝えるようにしてきたが、伝えきれない部分もあった。情報の発信の仕方を工夫していきたい。</li> <li>・PTA主催の『おたのしみ会』や『家庭教育講座』では、子どもとのふれあい遊びや楽しみながらできる体づくりなどを体験し、保護者同士の交流の機会にもなった。</li> <li>・保育園との交流は定着してきたが、小中学校との交流は少ないと感じている。公開保育などで、もっと幼稚園での取り組みを積極的に伝えていきたい。</li> <li>・地域や保護者の方からいただいた意見や評価に対して、職員で話し合い、改善するよう努めてきた。</li> </ul>	

## 2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> <li>・今ある課題に対しては、その解決のために全職員や家庭と共に考え合っていく。</li> <li>・幼稚園で大切にしていることや、ねらいなど降園後やたより等で伝えてきたが、伝わりきれない部分もあった。写真の活用など園からの発信の仕方を工夫していく。</li> <li>・自然の不思議さや驚き、発見を大事にした活動を今後も大切にし、飼育や畑の栽培活動にもより力を注いでいきたい。また、食育や生活リズム、生活習慣、あいさつなどの大切さについて、子どもだけでなく、家庭と共に考えていく。</li> <li>・今年度も地域の施設や自然を活用し、園外保育に出かけてきたが、さらに地域の良さを生かした豊かな自然体験ができるよう計画的に保育に取り入れていく。</li> </ul>
--

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 羽津幼稚園

### 1 園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点1	遊びを通しての学びの充実	3
成果と課題	<p>○初めて経験することや失敗を恐れるような場面で個別に声をかけたり遊びを繰り返していくことで、教師との遊びから少人数の友だちとつながったり、楽しさを感じられるようになった。</p> <p>○栽培やクッキング、収穫祭などを通して食に関心を持ち少しずつ苦手なものに挑戦する幼児が増えてた。</p> <p>・園外保育やサーキット遊びなど体作りにつながる活動が継続的に行えなかった。め今後安全面に配慮しながら実現できる計画をたてる必要がある。</p> <p>・子どもたちの学びの充実につながるよう環境のあり方や設定などを職員間で話し合い深めていく必要がある。</p>	

重点2	人とかかわる力の育成	3
成果と課題	<p>○ふれあい遊びに繰り返し取り組むことで友だちとのつながりができたり、一緒にする楽しさを感じることができた。</p> <p>○友だちが挑戦していることを、周囲の友だちに知らせ、認められることで自信につながっていく姿があった。</p> <p>○グループ単位で活動することで自分だけができた方がいいのではなく、同じグループの友だちを気かけ声をかけたり協力したりする姿につながっていった。</p> <p>・教師が積極的に声をかけ挨拶に取り組んできたが、自ら進んで挨拶する幼児が少なかった。挨拶する心地よさをもっと感じられるようなかわりが今後必要である。</p> <p>・自分の思いがうまく言葉で伝えられない幼児には、教師が仲立ちとなりその子の気持ちを引き出したり相手の気持ちに気づかせたりしながら言葉で伝えられるように援助してきた。しかし、強い口調で伝えてしまったり、誤解を招くこともあるため、今後も一人ひとりへのかわりと共にクラス全体への投げかけや考える機会をつくっていけるとよい。</p>	

重点3	地域や家庭、専門機関との連携の推進	3
成果と課題	<p>○地域の老人会との交流を継続して行ったことで子どもたちにとっても親しみが生まれ、温かい雰囲気の中で安心感を持ち、豊かな表情で交流することができた。</p> <p>○さまざまな不安を抱える保護者の気持ちに寄り添いながら、関係機関へとつなげられた</p> <p>・降園時にいろいろな保護者と話しができるような雰囲気づくりや教師から積極的に日々の様子を継続的に伝え、保護者の思いを聞いていく時間を作っていく必要がある。</p>	

### 2 改善方針

<p>・園内行事や参観の精選を行い、保育内容の充実が図れるよう計画的に園内研修を行っていくと共に、日ごろから職員間で子どもの姿を出し合い、ねらいをもって適切な援助ができるよう手立てを考えていく。</p> <p>・公開保育や研修での学びが還流ができるよう月に1度報告できる場を作り、子どもたちの学びの充実につながるような話し合いを持つ。</p> <p>・思いを言葉で伝えられるよう、中学校区の取り組みの中にもある「どんな気持ちカード」を継続的に活用していく。また、一人一人への丁寧なかかわりと友達同士のトラブルや困ったことなどがあった時にどうしていくとよいかなどクラス全体への投げかけを続けていく。</p>	
--	--



## 自己評価書

四日市市立 富洲原幼稚園

## 1 園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点1	遊びの充実を図る。	3
成果と課題	<p>○4・5歳の混合学級という園運営初年度で、いろいろと試行錯誤はしたが、1つのクラスの中で異年齢が互いに刺激を受けながら成長することが出来た。</p> <p>○4・5歳が同じクラスとして一緒に遊ぶことで、4歳は5歳の刺激を受け、集団遊びにも安心して喜んで参加することが出来た。5歳も4歳がいることで話し合ったり、折り合いをつけて遊びを進めていこうとする姿も出てきて、異年齢が自然に混ざり合い遊ぶことが出来た。</p> <p>○友だちと遊ぶ楽しさが味わえるよう、教師も一緒に遊びながら言葉をかけたり、友だち同士で関わり合えるよう見守ったりしてきた。次第に友だちを求めたり、互いに譲り合ったりする姿が見られるようになった。</p> <p>●自ら選ぶ活動では、大人や友だちに頼る・任せる幼児もいて、自ら主体的に選び、考えたり意見を出し合う部分が弱かった。又、外遊びをする機会が増え、体力向上につながったが、今後は幼児だけで遊びを展開・継続する力が伸びるような教師の関わりを工夫していく。</p> <p>●混合保育ということで、なるべく4・5歳で遊びを一緒に行ってきたが、その時の幼児の姿を捉え、4・5歳の発達の違いも大切にしながら、取り出しの部屋の在り方を考えていく必要がある。</p>	
重点2	自己を表現する力を育てる。	3
成果と課題	<p>○一人一人の幼児に丁寧に関わり、思いを聞いたり認めることで、気持ちが安定し、個人差はあるが自分の思いを言葉にして伝えようとする幼児が増えた。話すこと・人に聞いてもらう喜びを感じる姿が出てきた。</p> <p>○一人一人に丁寧に声をかけてきたことで、いろいろな方法で気持ちを表現する楽しさを感じられる幼児が多くなってきた。</p> <p>○言葉だけでなく、幼児の言葉に出来ない気持ちの部分をわかろうと、日々の姿から捉え、話し合ってきたことで、幼児の気持ちを代弁したり、関わったりすることが出来た。</p> <p>●言うてよいことと、そうでないことがあるということに気付いても、友だちと伝え合うことが難しい姿が見られた。職員間で、共通認識を持って関わるようにしていきたい。</p> <p>●自分の思いを話したい気持ちが強い子もいて、相手が話している時も状況をつかめず、話し続けてしまうこともあった。反面、困った時に自分なりの言葉で訴えることが苦手な幼児もいた。今後は幼児の姿を中心に、家庭の状況も把握しながら関わりを工夫し、幼児が自己肯定感を高めていけるようにしていく。</p>	
重点3	家庭・地域との連携を図る。	3
成果と課題	<p>○登降園時に、家庭での様子や園での幼児の様子を伝えることに努めた。又、幼児の姿や思いを保護者と共有し、保護者の願いも幼児の姿を話す中で聞くことが出来た。様子だけでなく、幼児の今の姿が将来どのようなようになっていくのかを園ビジョンと照らし合わせて、保護者がイメージしやすいように意識して伝えてきたことで、保護者も取り組みの大切さ・幼児への関わり方を知る機会になった。</p> <p>●教師が進んで挨拶をすることで、幼児も挨拶をするようになってきたが、自分から進んで挨拶をする幼児は少ない。園での指導だけでなく、保護者にも一緒に取り組んでもらうような手立てを考えていく。</p> <p>●地域に出かけたり、地域の人と焼き芋をしたりして触れ合う機会は充実していたが、その交流から、幼児の心が豊かになっていくような活動にしていく取り組みの工夫をしていきたい。又、今後は教師自身が地域の活動を広く知り、幼児が自分の地域に親しみを感じる事が出来るような経験を充実させることで幼児に返していきたい。</p>	

## 2 改善方針

- ・職員間で共通理解した関わりや、園で活動するための意見交流・連携をもっと深めていく必要がある。
- ・体作りについては、年間を通して散歩に出かけるなどの取り組みを継続して設定していくことが出来なかった。朝の体操については年間を通して実施することが出来、幼児の生活に一定のリズムを付けることが出来た。また、マラソンについても継続して走り続けることが出来るようになり、体力向上につながった。今後も毎日の保護者や幼児とのかかわりの中で、はやおきする事、時間を守る事など生活リズムの大切さを伝え続けていく。
- ・誰にでも自分から挨拶出来る幼児を育てるために、教師がモデルとなることはもちろんだが、幼児が挨拶が出来ない場面に気づき、どうしてなのか、どんな環境の時にできにくい姿があるのかなど、教師自身が課題を感じられるように意識していく必要がある。
- ・栽培活動において、園で沢山栽培し、収穫して食べたりして、食育を充実させることが出来た。今後はもっと保育の中の自然環境に視点を置いて環境を工夫していく。園全体で栽培についての教材研究を積極的に行い、幼児が自然に興味・関心を持ち、発見や感動が得られるように努めていきたい。
- ・混合保育のあり方を今後もさらに検討し合い、活動や行事を行うときには、常に幼児の姿に基づいて活動や支援の仕方を考えていく。

## 自己評価書

四日市市立 高花平幼稚園

## 1 園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点1	健康な心と体の育成	3
成果と課題	<p><u>体を使い、夢中になって遊べる環境づくり</u>  ○年間を通して、鬼遊び、リレーなど全身を使った遊びを楽しみ、保護者アンケートより「戸外で遊ぶことが好きになりましたか。」の問いに「そう思う」が84%「おおむねそう思う」が16%の回答であった。幼児が楽しみながら身体感覚を高めるための環境の工夫を、今後も考えていきたい。</p> <p>○朝の駆け足や鉄棒、うんてい、縄跳びなどを取り入れたチャレンジタイムに取り組むことで、身体を動かす楽しさややってみようとする意欲が体力づくりにつながった。</p> <p><u>地域探検、園外保育の充実</u>  ○散歩や遠足など、地域の自然を活かした園外保育に出かけることで、季節を感じたり、地域の人と触れ合ったりして、自分の地域に親しみを感じることができた。今後も、継続的に地域に出かけ、豊かな自然に触れながら体力づくりにつながる経験を考えていく。</p> <p><u>食への関心を高める活動(栽培活動、クッキング等)</u>  ○年間を通して継続的な栽培や食育の活動を行なったことで、食に興味・関心を持ち、自分から食べてみようとする意欲的な姿が多く見られるようになった。保護者アンケートでも「きれいな食べ物でも食べようと努力する姿がみられますか。」の問いに対して「そう思う」63%「おおむねそう思う」32%であった。今後も家庭との連携をもちながら、個々に応じた取り組みを続けたい。</p>	
重点2	コミュニケーション力の育成	3
成果と課題	<p><u>元気にあいさつ、気持ちが通じ合う取り組み</u>  ○朝の出会いをはじめ、友だち同士で、また地域の方や来園者に挨拶ができるようになってきた。挨拶をすすんでする幼児がいる一方、声をかけてもらうことで安心して挨拶をする幼児の姿もみられるので、今後も教師が率先して気持ちのよい挨拶を心がけていく。</p> <p><u>聞きたい、話したい、友だちと想いを伝え合う環境づくり</u>  ○友だちと共に活動したり、目的に向かって思いを出し合いながら取り組む楽しさを感じることができた。日常生活の場面を通して言葉だけでなく、表情や行動も含め、気持ちを伝え合う場面を大切にしながら、今後も取り組んでいく。</p> <p>○聴く力については、人の話や声に耳を傾ける指導の工夫が必要であった。特に、全体の場で、話す人をきちんと見て聴く態度を身につけられるよう、教師が意識を高めることが大切である。</p> <p><u>憧れ、思いやりのある異年齢との関わり</u>  ○混合保育を行う中で、生活や遊びの中で異年齢のかかわりを深めることができた。5歳児は4歳児の気持ちを汲みとって関わろうとする優しい姿がみられた。そんな5歳児のかかわりに4歳児は憧れの気持ちを持ったり、安心して自分の思いをのびのびと表現しながら園生活を送ることができた。</p> <p><u>地域の方とのふれあい、近隣保幼小中との交流</u>  ○保幼小中、あけぼの学園、地域の高齢者の方との交流の機会を積極的に持ち、いろいろな人と触れ合う中で、刺激を受けたり、温かさを感じることができた。交流を通して、大勢での活動や沢山の人の前で発表する活動をたくさん経験することができた。</p> <p>○給食体験や一年生と一緒にいるいもほり、学校体験など小学校との交流を通して、小学校生活を楽しみにし、期待を持つことができた。</p>	

重点 3	学びにつながる意欲の育成	3
成果と課題	<p><u>意欲的に挑戦する、粘り強く取り組む姿勢</u>  ○運動会への取り組みや、日々の遊びの中で教師が園児の頑張りを支えていった事で、竹馬や鉄棒、縄跳びなど、根気よく取り組む姿がみられた。好きな遊びの幅の広がりや興味の深まり、やってみたいという意欲を高める環境を工夫していく。</p> <p><u>不思議、おもしろい、考えて、試す経験</u>  ○自ら選んでする遊びの時間を大切に、幼児の発見や考えを大切に保育を行うことで、砂遊びや色水遊びなど自然物とのかかわりの中で様々な気づきや発見をしたり、その不思議さに心を動かし、探求してみようとする意欲を持つことができた。</p> <p><u>友だちとの協働、高め合う喜びの体験</u>  ○発表会では、思いを伝え合ったり、生き生きと表現する姿が見られた。運動会、発表会等の取り組みの中で、考えを出し合い、協力し合い、成し遂げていく達成感を体験していくことができた。</p> <p><u>小学校につながる学びの基礎の育成</u>  ○積み木や空き箱制作などの構成遊び、お店屋さんごっこや絵本づくりなどを繰り返し楽しむ中で、自らが考え、工夫して遊ぶ楽しさを感じていくようになった。また、遊びの中での数や形、文字に興味を持つ姿がみられるようになった。幼児の発見や失敗も含めて気づきや経験の中で、試行錯誤しながら幼児期の見方、考え方を育む。</p>	

重点 4	子育て支援の充実、地域、家庭との連携	3
成果と課題	<p><u>保護者・地域との連携の強化</u>  ○家庭との連携を大切に、保護者と降園時に話す機会を持ち、共に幼児の成長を喜んだり考えたりすることができ、必要な支援につなげることができた。今後も相互理解を図り、共に考えあえる関係づくりに全職員で取り組んでいく。</p> <p><u>保育園・小学校・中学校の連携の推進</u>  ○中学校区での学びの一体化研修等で、地域の保幼小中と共に0歳から15歳までの育ちを考え、幼児期にどのような力をつけていくとよいのかを学ぶことができた。</p> <p><u>子育て支援活動の充実</u>  ○園開放の遊び会の内容を、園児と遊び会の子どもたちが一緒に活動する機会を作るように工夫したことで、園への安心感や期待感につながっていった。また、3歳ひよこの活動を通して、来入児の入園への期待や安心感が高まった。</p> <p>○園の行事に合わせて共に楽しめる「おもいレストラン」、保護者と園とが協力して行う「ひよこまつり」など地域、保護者、園とが協力しながら取り組むことができた。</p>	

## 2 改善方針

<p><u>健康な心と体の育成</u>  地域探検や自然と触れ合う活動を工夫し、体づくりにつながる取り組みを継続的に実践する。</p> <p><u>コミュニケーション力の育成</u>  話したい、聞きたい、伝え合いたい環境づくりとして教師がしっかりと意識を持ち、話を聞く態度が身につけられるように根気よく関わり、大勢の中で話を聴く機会や、外部の方の話を聴く機会を取り入れていく。また、見たこと、感じたことなどを自分なりの言葉で伝えようとする姿を大切に捉え、保育をすすめる。</p> <p><u>学びにつながる意欲の育成</u>  意欲的に挑戦する、粘り強く取り組む姿勢を育てていくために個々の幼児のねらいに応じたかかわりを考えていく。幼児の興味や関心が広がるような環境の工夫や教師の援助のあり方について、職員研修の充実を図る。</p> <p><u>子育て支援について</u>  遊び会の内容や様子などを広く知らせていく発信のあり方を工夫していく。</p>
---

## 自己評価書

四日市市立 大矢知幼稚 園

## 1 園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点1	コミュニケーション力のある子どもを育てる	3
成果と課題	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日々教師がモデルとなって挨拶をするなどして、幼児が自らすすんで挨拶をすることについて取り組んできた。4歳児、5歳児ともに友だち同士、または来園者や園外で出会った人に挨拶をする姿が見られるようになった。アンケート結果から、92%の保護者・教師が「子どもが挨拶をするようになった」と回答していることから、家庭にも浸透していると思われる。</li> <li>・4歳児、5歳児のペアで活動する機会をつくることで、異年齢でかかわる姿も多く見られた。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・恥ずかしがって挨拶をすることが難しい幼児の姿もある。一人ひとりの姿に合わせて、今後も挨拶をする心地よさを感じられるようにかかわる必要がある。</li> <li>・自分の思いを出せるようになってきたが、相手の気持ちにも気がつき、互いの思いについて話し合える場の積み重ねを大切にしていきたい。</li> </ul>	
重点2	体力のある子どもを育てる	3
成果と課題	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児らは遊び方や走り方を工夫して様々な鬼遊びやボール遊びをして体を動かして楽しむ姿があった。個々での遊びが次第に集団遊びやルールのある遊びへと広がっていった。</li> <li>・家庭では食べられなかったものが、園での取り組み（食育の絵本を読む、運動会の表現活動に入れるなど）で食べられるようになった姿が見られた。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育計画に地域の広場の活用なども明記し、全速力で体を動かせる経験ができるようにしていきたい。</li> <li>・運動遊びの経験に個人差がある。クラス活動で経験できるようにし、ルールの共通理解や遊びの楽しさを感じられるように引き続き取り組んでいく必要がある。</li> <li>・食事のとき、話を聞くとき等の姿勢が悪い幼児の姿がある。引き続き、姿勢保持とその大切さについて伝えていく。</li> </ul>	
重点3	感性豊かな子どもを育てる	3
成果と課題	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な材料・自然物を利用した遊び（お店屋さんごっこなど）や絵画製作を通して、幼児らが思いを伸び伸びと表現する姿があった。今後も幼児の姿に合わせて、一人ひとりの幼児が心を揺さぶられる経験をできるようにしていきたい。</li> <li>・絵本ノートのコメントから幼児らが絵本の貸出を楽しみにしていること、保護者も絵本に興味を持ってもらっていることが感じられる。クラスだよりでも教師のおすすめの絵本を知らせたことで、幼児らが決まった絵本ではなく様々な絵本を借りるようになったと思われる。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な感性を持つ幼児がいる。一人ひとりの感性を知り、寄り添うことはできた。しかし、幼児同士が一人ひとりの感性の違いに気づいたり、感性が違うからこそ楽しめるという機会をあまりつくれなかった。</li> <li>・「感性を豊かに育てる」ということについて、実践記録をもとに話し合い、教師が共通理解をしていく必要がある。</li> </ul>	

## 2 改善方針

・年度当初に立てた重点目標について、計画的に話し合いをもつことで、さらに取り組みが深まると思われる。研修担当を中心に、年間計画に位置付けていく（例えば「校・園内の日」など）と共に、具体的な研修課題（例えば今年度であれば「感性が豊かだと思った幼児の姿」「感性が育ってきたと思う場面」など）を設定し、それぞれの担当月を決め研修するなど、研修方法も明らかにしていくことが改善策になると考える。

## 自己評価書

## 1 園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点1	自分の趣味・関心のある遊びに自主的にかかわり、集中して取り組む	3
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら興味のある遊びに関わっていけるよう、またイメージしたものを作れるよう色々な素材を用意したことで、作ったもので遊ぶ姿があった。また、戸外では自然豊かな園であるため、園庭にいる虫を探したり、はっぱや花びら、木の実などの自然物を遊びに生かすことが出来た。自然との関わりには、自然の変化に教師も敏感に気づき、積極的に子どもに声をかけ気づかせたり、教師から新たに遊びを提案したりしていくことが大切である。</li> <li>・4歳児には、一人ひとりにじっくりと関わったことで、幼稚園が楽しい場所となり、安心する空間となった。また、それぞれの興味・関心のある遊びを教師が知ることが出来、そこから遊びを提案したり、一緒に楽しむことで自分から遊びを見つけて集中して取り組めるようになった。</li> <li>・5歳児は、友だち関係も深まり友だちと遊ぶことを楽しむようになった。また、繰り返し挑戦すること（竹馬など）を経験し、自分で目標を立てて取り組み、出来るようになる喜びを感じ、1つのことに集中して取り組むことが出来た。</li> <li>・遊びの中で異年齢で遊ぶ姿も見られ、4歳児は5歳児の遊びに刺激を受けて真似て遊ぶこともあった。</li> </ul>	
重点2	人と関わる力を育てる	3
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4・5歳混合クラスの良さを生かし、行事では意識して、異年齢でのペアで取り組む機会を増やしたことで、お互いを思いやる気持ちが育った。しかし、行事の中での交流が多く日々の遊びの中での自然な交流が少なかった。</li> <li>・4歳児は初めての集団生活をする子が多く、必要に応じて相手の思いを考える機会をもち、どのように関わるといいかクラス全体で考えてきた。次第に、園生活の中での繋がりで、一緒に遊びを楽しむようになった。また、5歳児は決まった関係性の中で遊ぶことで安定している姿があったが、一人ひとりの姿を受け止め、認めることで自信になり、自ら積極的に遊びを楽しみ、いろいろな友だちと関わる姿がみられるようになった。</li> <li>・年間を通して、地域の老人会の方々と一緒に活動することで、あたたかい気持ちに触れ、高齢者を尊敬する気持ちが育った。</li> <li>・自分の気持ちを表現することが苦手な子どもにも、相手への伝え方を具体的に知らせ、教師と一緒に付き添い伝えることで、自信をつけることができた。相手の気持ちに気付きにくい場面もあるので、自分の気持ちを伝えるだけで終わらず教師が気づかせていけるよう言葉がけしたい。</li> </ul>	
重点3	心身ともに健康な体づくりを行う	4
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体づくりを、体を動かすことと、食育の両面から考え、園児と共に遊びの中で取り組むことで年間を通して計画的に実施することが出来た。</li> <li>・園児には、遊びながら体づくりができるように、園の自然を生かした環境設定を見直し、子ども達が自主的に取り組むことが出来るように工夫した。また、みんなでする活動でも体づくりを意識した取り組みをすること（滑り台や巧技台などを組み合わせてサーキットを設定したりすること）で、体を動かすことに興味を持つ子どもが増え、取り組むきっかけに繋がった。体の細かな動かし方は、専門家の意見を聞きながら行い、より細かなところまで意識することの必要性を感じた。</li> <li>・保護者向けに調理実習を行い、野菜を食べることの大切さを講演と実践で学ぶことができた。また、親子で体を動かす実技を2回行い、幼児期の今、一緒に触れ合うことの大切さや、具体的にどのように行うと良いのかも実践を通して学んでもらった。</li> <li>・地域が行う米作りに参加させてもらい、親子で田植えと稲刈りを体験した。収穫した米や野菜を使い、おにぎりや豚汁を作り収穫をみんなで喜ぶことが出来た。週末の行事でありながら、多数参加することが出来た。来年度も参加してもらえようようにしたい。</li> <li>・規則正しい生活リズムを送れるように、保護者との会話の中で子どもの姿を伝え合い、連携をとってきた。</li> </ul>	

## 2 改善方針

### 重点1

- ・子どもの気持ちが安定することでより遊びに集中して取り組める姿があった。日々の子どもの姿を伝え合い、幼児理解を深めていくことが大切である。また、幼児の興味関心を捉え、より遊びが発展していくように環境を工夫していく必要がある。
- ・行事は子どもの興味関心や子どもに伝えたいことなどのねらいを持ってとりくんでいる。しかし行事と日常の自ら選んでする遊びが繋がるように行事のねらいや持ち方を見直したい。
- ・一人ひとりのねらいを明確に持ち、子どもが遊びたいと思うような環境づくりにさらに取り組んでいきたい。

### 重点2

- ・混合クラスとして行事ごとの交流を行うことが出来た。行事を重ねるにつれて自らの時間での関わりも増えたが、もっと自ら選んでする活動の中でも交流を深めていけるよう環境の設定を考えたり、日々それぞれの学年で興味のあることや子どもの姿を伝え合ったりしていくことが大切である。
- ・気持ちがぶつかり合う場面や思いが伝わらない場面では、教師と本人達同士だけでなく、周りの友だちも一緒に考え合うことで、つながりかかわる力を育まれていく。
- ・地域交流では、当日の関わりだけでなく、事前に子ども達にどんなことをするかなど期待を持たせたり、見通しを持たせたりすることで、より交流が深まるようし、教師側もきちんと年間を通したねらいを持って取り組みたい。

### 重点3

- ・今年度、専門家と連携を取る事でより具体的な環境設定を考えたり、意識して子ども達と関わる事が出来た。今後も継続して専門家と連携を取り、また研修に参加するなどし、資質向上に努めていきたい。
- ・体づくりに関して、（例えば、今月の体操などを決めて取り組んだり、活動の間の時間を利用して体を使った遊びを行うなど）計画的に取り組むことで、より職員が意識を持つことができる。
- ・一人ひとりの生活背景をしっかりと捉え、保護者の思いも受け止めながら、子どもについて話し合っていけるよう、今後も保護者との対話を大切にしていきたい。
- ・生活リズムの大切さを伝えるおたよりを発行してきた。より読んでもらえるようなおたよりの内容の工夫や伝え方を考えていく必要がある。



【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 桜幼稚園

### 1 園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点1	遊びを通しての学びの充実	3
成果と課題	<p>・「幼児たちが教師や友だちとの関わりを通して楽しんで遊ぶ」というねらいを持ち、一人一人の幼児の遊びが充実感で満たされるよう取り組んだ。</p> <p>・4歳は、初めての環境、集団生活をする幼児たちなので、教師や友だちとの関わりの中で安心して遊べるよう温かい雰囲気を作るよう心掛けた。また、登園した幼児たちがすぐに興味を持って遊び出せるように環境構成を工夫した。絵本を通して出会った話を遊びの中に取り入れて友だちと一緒に表現遊びをしたり、言葉のやりとりをしたりして遊ぶ楽しさを味わった。</p> <p>・5歳は、船作りや飛行機飛ばし、自動販売機作りなど、興味を持ったことを繰り返し遊ぶことを楽しんだ。幼児からアイデアを出し合い、遊びに取り入れて発展的に遊ぶ姿も多く見られた。また、遊びの中で友だちと関わることを通して、相手の思いを考えようとする幼児同士のつながりもでき、自分たちで誘い合ったり、遊びのルールを考えたりしながら遊びを楽しむ姿も見られた。</p> <p>・保護者と協力しての挨拶の取り組みを年間通して取り組んできた。幼児からすすんで挨拶しようとする姿につながるよう今後も取り組んでいきたい。</p>	
重点2	健康な身体づくり	3
成果と課題	<p>・ほとんどの幼児が、鬼遊びやボール遊びなど全身を使っての活動を戸外で喜んでしていた。4、5歳が一緒に楽しめる遊びや、それぞれの年齢に合わせた遊びが楽しめるよう、その都度職員で話し合い、環境構成を整え設定してきた。</p> <p>・体を動かして遊ぶことが苦手な遊びに偏ったりする幼児もいる。年間を通して、いろいろな遊具にふれたり体幹を意識した活動・手先まで使った遊びなど、楽しみながら身体感覚を高めるための工夫や、雨の日に室内で取り組める運動遊びの充実を今後も考えていくようにしたい。</p> <p>・「早ね・早おき・朝ごはん」の生活リズムについて、保護者と連携をとりながら取り組んできた。9時までの登園や朝の体操に取り組むことで生活リズムが定着したり、親子体操の時間を家庭でも持ってもらえるよう、ファミリー参加で体験したり便りで知らせたりして、幼児の身体づくりにつながるよう取り組んだ。</p> <p>・食育を通して、園内の畑で野菜を育てたり調理をしたりする機会を通して、様々な食材にふれることができた。苦手な野菜も「少し食べてみよう」という気持ちにつながり食べる食材も増えた。しかし、園では食べるが家庭では「食べない」という姿もある。健康な心と体をつくるために必要であることを幼児が感じられるよう、今後も家庭と協力して取り組んでいきたい。</p>	
重点3	豊かなコミュニケーション力の育成	3
成果と課題	<p>・混合保育を通して、4、5歳の自然な関わりが多く見られた。5歳が4歳の安心感につながるよう優しく接したり、4歳が5歳に対して憧れの気持ちを抱きいろいろな遊びへと自ら入っていく姿が見られた。今後も、4、5歳を一つの大きな集団として活動の充実を意識して取り組んでいくようにする。</p> <p>・4歳はスキンシップをとりながら自分の思いを訴えようとする表現方法が見られた。幼児なりに思いを発信している姿を受け止め、相手に分かるよう言葉の伝え合いができる援助してきた。安心して思いが出せるようにしたり、どのように言うとかえり考える機会を今後も継続してつくっていくようにする。</p> <p>・5歳児は、地域との交流、保育園・小学校・中学校・高等学校といろいろな世代の人との交流を通して人と関わる温かさを感じることができた。また友だちとの関わりを通して、相手の思いを感じて動くようとする姿も見られる。自分と同じように感じたり時には違うことも気づきながら、自分が思ったことを自信をもって伝えられるように今後も幼児のコミュニケーション力につながる関わりをしていきたい。</p>	

重点 4	地域とのつながりと子育て支援の充実	3
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファミリーティーチャーを通して、保護者に園で幼児たちの遊んでいる様子を知ってもらうことができた。また一緒にふれあって遊ぶ活動を通して、幼児理解につながった。</li> <li>・保護者との連携は、保育後の対話を教師からすすんでしていくことで、子どもの育ちについて一緒に考えていくことができた。今後も保護者とともに幼児の成長を考えていく姿勢を大切にし、保護者の思いに傾聴し受け止める姿勢で取り組んでいくようにする。</li> <li>・地域の方たちとの焼き芋大会、文化祭での交流、保育園・小中学生との交流、高校生の保育実習と、年間を通していろいろな世代との交流を行う事ができた。特に、中学生、高校生との交流は、幼児たちにとって憧れの気持ちにつながった。今後も地域の方たちをはじめ、いろいろな世代の人たちとの交流を大切にし、幼児たちが人とふれあう楽しさや感謝の気持ちを持つことができるよう取り組んでいく。</li> <li>・生活リズムの取り組みの中で、地域の園医・歯科医さんの協力を得て、安全指導・歯磨き保健指導を実施していただくことができた。幼児たちが自分の体に関心を持ち大切にしようとする気持ちにつながった。今後も継続して連携をとってしていくようにする。</li> </ul>	

重点 5	教師の資質向上	3
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃、保育後に幼児の様子や課題について職員間で話をし、明日からの保育や幼児への関わりについて意見を出し合う機会をもつようになってきた。職員全員で幼児の姿について考え、共通理解のもとで関わるように努めた。</li> <li>・混合保育の進め方について、その都度確認をし、幼児の発達が保障されるよう取り組んできた。今後も幼児が楽しく活動することを通して、活動や遊びのねらいを全職員が把握して一人一人の発達に応じた援助に心がけ、幼児が遊びたい・やってみたいと気持ちがわく魅力的な環境作りに心掛けていきたい。</li> <li>・研修会に積極的に参加し、職員の資質向上につ努めた。また、研修での学びを園内で還流報告する機会を持ち、職員全体の意識を高めることにつなげた。</li> <li>・外部講師を招き、幼児の見方や関わりについて学ぶ機会を持つことができた。その中で新たな気づきも多くあり保育に活かすことに努めた。</li> </ul>	

## 2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びの充実を目指して、4歳5歳の教材研究をし、年齢や発達段階に応じた教材の効果的な出し方や環境作りを年間を見通して考えていくようにする。</li> <li>また、体幹を意識した活動を今後も継続していくために、発達に応じた取り組み方をしていく。</li> <li>・地域の方たちの協力を得られる環境にある。園外保育にで出かける機会を年間計画に位置付けて取り組むようにする。地域に見守られていることや温かさ、自分の住む町が好きになる幼児の気持ちを育てていきたい。</li> <li>・月1回の研修を位置づけ、実践をもとに討議する研修を充実させる。幼児をありのまま受け止める姿勢を大切にし自分の保育の振り返りをして資質向上に努めていく。</li> </ul>
--

## 自己評価書

四日市市立 常磐中央幼稚 園

## 1 園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点1	<b>確かな学力の定着</b> ・遊びを通して総合的に学べる環境構成・幼児の興味・関心・意欲につながる環境構成を進める	3
成果と課題	・教師は、幼児一人一人の興味や関心を探ることに努め、「やってみよう」という気持ちを抱き、遊びに向かう姿『意欲』を重視して保育を進めた。毎日準備する環境は、保育室、戸外の遊びが豊かな体験につながっていくように考慮した。教師も様々な遊びを提案し、様々な遊びが展開できるよう工夫した。異年齢の幼児が共に遊ぶ姿も多く、興味や関心へよい刺激になった。しかし、好きな遊びや得意なことには意欲的な姿を見せても、やったことのないことや、苦手と感じていることには、消極的な傾向が見られる。幼児が「やってみたら楽しかった」「何度も挑戦したらできた」という気持ちを味わう経験をするのが何より大切である。教育ビジョンアンケートでは、『遊びの種類や生活体験が増えましたか』の項目で88%、『遊びを試したり工夫したりして遊びますか』の項目も81%保護者が『そう思う』と感じるなど一定の成果があった。 今後も全職員で連携し、幼児の興味を多面的に捉えてかかわり、個々の幼児の意欲を育て、友達と一緒に体験を通して学ぶことができるように努めていく必要がある。	
重点2	<b>豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成</b> ・安心して過ごせる環境・クラス作りを進める。 ・基本的な生活習慣や規範意識を身につけ「きく力」「話す力」「考えて行動する力」を育てる	3
成果と課題	・園全体で、一人一人の幼児に丁寧にかかわり、思いや考えをじっくりと聴くことに努め、信頼関係を築くことを大切にしてきた。幼児は、自分の気持ちが伝わるようになると、安心してすごすことができた。集団の中でも自分の思いを『話す力』はついてきたが、アンケートでは『人の話を聴こうとしますか』の項目が一番低い評価となった。集団の中で「きく」環境、教師の話し方など工夫を重ね実践してきたが、まだまだ難しい姿がある。どの様な場面でも、様々な人の話を聴く体験を積み重ねる必要がある。 ・一年を通して挨拶をコミュニケーションの基礎と捉え、教師から積極的に挨拶をしてきた。名前を呼ばれたら返事をすることや、「ありがとう」「ごめんなさい」などその場に合った挨拶も、意識して推進に努めた。しかし『すすんで挨拶をするようになりましたか』の項目は『そう思う』が51%と課題に感じている保護者が多い。さらに『手洗い・うがいをすすんでしますか』も63%で、幼児が自主的に行うことが難しいと明確となった。今後も、幼児が自分で必要性を感じ、進んで行えるように指導方法を工夫し、家庭の協力を得て定着を目指し、自分で「考えて行動する力」の育成に努めていきたい。 ・全職員が様々な研修に取り組み、様々な見方で幼児をとらえることができ、幼児の気持ちを理解してかかわることにつながった。教師の一人一人に合わせた適切な援助は、幼児同士が認め合うかかわりにもつながるので、毎日職員間で話し合い、かかわりの見直しを図るよう努めてきた。	
重点3	<b>健康・体力の向上</b> ・様々な活動を通してしなやかな身体を作る ・身体を動かして遊ぶことが好きになるような環境作り、教材の研究を進める	4
成果と課題	・昨年度に引き続き、幼児の発達や時期などを考慮して、トランポリン、平均台、巧技台、跳び箱、トンネルなどを設定し、様々な身体の部位を使って遊べるように工夫してきた。不安定な様子で登園した幼児が自分から遊び出したり、友達に刺激され、意欲的に挑戦したりして、自信をもって過ごすきっかけになった。今後も幼児が楽しく安全に取りくめる遊具や遊びを考慮し、魅力的な環境の研究が必要である。 ・日々の活動に、体操やマラソンを取り入れ、幼児が目当てをもって鉄棒や雲梯、縄跳びなどに取り組んだりできるようにした。アンケート結果では93%の保護者が「戸外で遊ぶことが好きになった」と評価するなど、大きな成果が得られた。園外にも続けて出かける機会を設け、歩くだけでなく、草花や木の実、虫などに触れるよい機会となった。今後も年間を通して園外保育を計画し体力向上を目指したい。	

重点 4	<b>学校教育力の向上</b> ・ 保幼小中の連携を図り、教育活動の実践を図る	3
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度も、同じ中学校区の保幼小中で連携をとることができた。公開保育、公開授業などを通して、園での幼児の姿を伝え、同じ地域で生活する子どもの姿を見合ったりすることができた。また、合同研修などを通して、中学卒業までにつけたい力、学ぶ意欲の育成の取り組み、課題解決への実践内容の交流もできた。</li> <li>・保幼交流は、年度初めに一年間の交流の計画を立てて実施することができた。就学前に同じ経験を積むことができ、同じ年齢のたくさんの幼児と顔を知り合う機会になった。また、小学生や中学生との交流では、様々な人とかかわる経験となり、親しみをもってかかわっていく姿につながった。年長児の給食体験や授業見学などの機会は、小学校への見通しをもつことにもつながっている。今後は、今年度の活動をふまえ、さらに綿密な打ち合わせを行い、交流が互いによりより経験となるようにしていきたい。</li> </ul>	

重点 5	<b>地域とともにある園づくり</b> ・ 家庭・地域との連携を図り、子育てについて共に考えていく	3
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の幼児の姿を保護者に伝え、園での様子をきっかけにして、しっかりと話をしていくように努めてきた。保護者と子どもの成長を共に喜び合い、時には子育ての悩みなども考え合うこともできた。今後も保護者とやりとりをする絵本カードなどを活用し、園での幼児の姿、家庭での様子などを共有していく。さらに、園と家庭が共に就学前につけたい力や願いをもって、かかわることができるようにしていく。</li> <li>・昨年度の反省から園開放を見直して、園行事で遊戯室使用時期に実施できなかった遊び会を、空き保育室を活用して回数を増やした。園の教育活動を広く知ってもらう機会となった。</li> </ul>	

重点 6	<b>四日市ならではの地域資源を生かした教育の推進</b> ・ 四日市のもつ地域資源を教育に活用して、四日市を知ったり、関心を持ったりする	4
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度に引き続き、参観日に「こにゅどうくん」を招いて、保護者と共に「エンジョイ四日市」の体操に親しんだ。2年目ということで、より歌詞の中の特産物などに興味をもち、幼児も保護者も、自分たちの住む四日市に親しみを感じ、楽しく身体を動かすことができた。運動会の最後のプログラムでは、保護者と一緒に「エンジョイ四日市」の体操を取り入れ、楽しいフィナーレとなった。</li> <li>・三重交通やあすなろう鉄道などの公共機関を利用して、プラネタリウム、そらんぼ四日市（博物館）、南部丘陵公園などの施設見学や遠足を実施し、家庭で利用したことのない幼児が四日市の地域資源を知る良い機会となった。さらに、どのようなことを「四日市がもつ地域資源」として教育活動に活用できるかを考えていく必要がある。</li> </ul>	

## 2 改善方針

重点 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の幼児が何に興味があるのか、何を楽しんでいるのかを探り、やってみたいと思える環境づくりをさらに園全体で研究する。また、幼児が初めて経験することに不安があったり、苦手意識を感じたりして、遊びや活動に消極的な姿を見せた時の教師の援助のあり方の研修を行う。</li> </ul>
重点 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣の確立のため、家庭訪問の機会や、日頃の保護者との話の中で、生活背景や一人一人の実態を把握する。生活習慣の自立に課題がある場合には、保護者と原因をさぐり、共に改善できる方向を考えていくようにする。</li> <li>・教師は、短く分かりやすい話し方を心がけ、話が聞けたことを認めるなど、集中して話が聴くことができる環境を、常に検証しながら作るようにする。</li> </ul>
重点 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、様々な身体の部位を動かしていく遊びを意識して取り入れる。季節ごとの園外保育などもしっかりと計画して実施できるようにする。</li> </ul>
重点 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就学に向けて、なめらかな接続となるように、保幼の交流や、小学校との交流をさらに連携して進めていくようにする。</li> </ul>
重点 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域とのふれ合いは、初めて会う人とのかかわり方や、振る舞い方を知る機会となる。園だけではできない経験を増やしていきたい。</li> <li>・在園児と未就園児との交流の機会を園の教育活動の発信にし、子育て支援の充実につなげる。</li> </ul>
重点 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児と共に日常的に園外へ出かけ、地域を歩いて巡る機会を作り、地域を知る機会にする。</li> </ul>

## 自己評価書

四日市市立 塩浜こども 園

## 1 園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点1	遊びに意欲的に取り組む中で、気づいたり考えたりしながら、「生きる力」「共に生きる力」の基礎の育成をはかる。	4
成果と課題	<p>○成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実践について研修し教育アドバイザーや指導主事訪問を受けることで、子ども一人ひとりを多面的に捉えて保育をすることにつながった。</li> <li>・今年度はこども園になったということで、指導主事訪問の際に、短時間ではあるが、指導を受けているクラスの保育を全職員が参観し、事後の研修に全員が参加し学びにつなげることができた。</li> <li>・人的環境として子ども・保護者・地域からの信頼を得られるように努力し、自分自身を振り返りながら、園内研修を進めることができた。</li> <li>・子どもたちが、さまざまな遊びや行事、普段の生活を通して、友だちや保育者など「人と関わると楽しい」と感じることができるよう心掛けた。</li> <li>・自己抑制ができにくい子どもや感情のコントロールが難しい子どもも保育者に自分の気持ちを受け止めてもらうことで、スモールステップではあるが、自分の気持ちに折り合いが付けられるようになった。</li> <li>・運動会、発表会等をはじめとする園内の活動を通して、葛藤や思いの行き違いなどを共に活動し協働する中で乗り越え、やり遂げた達成感や満足感を味わうことができた。</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりの子どもの特性を理解し、それにあった支援や活動を展開する研修を専門機関とも連携しより充実させていきたい。</li> </ul>	
重点2	生活リズムの向上の取組みとして、食育と基本的な生活習慣の確立を重点的に取り組む	4
成果と課題	<p>○成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎朝の体操やマラソンなどの活動を1年間継続して取り組んできたことで、生活リズムが整うようになってきた。この活動を通して、異年齢の交流も自然にすすめることができ、体力や持久力もついてきた。</li> <li>・野菜栽培では自分が育てたい野菜を選んで野菜の種類でグループを作り育てたり、生長の様子を絵日記のようにして記録したり、収穫物の数量を記録するなど可視化して楽しく世話をすることができた。給食調理員さんの協力で給食のいろいろなメニューの中に取り入れてもらい、他の学年にも感謝されるなど、自分たちの活動が評価されたり喜ばれる体験ができたことがよかった。</li> <li>・地域の方のご厚意でサツマイモ掘り体験ができた。収穫物でいろいろな簡単な調理、試食体験や制作活動ができた。他の学年を招待して「お芋パーティー」を計画実行できたことは大きな自信になった。</li> <li>・年長児は毎日の給食のメニュー表を見て本日の給食に使われている食材をみんなが見る食材表に掲示する係りを当番活動で楽しく行っている。体のためにどんな力になるかを各机に置いた成分表や各保育室に掲示した食材成分表で子ども同士で確認する姿が定着しており、「これは〇〇の力になるから頑張ってお芋を食べよう」等の声もどんどん増えている。</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣はなかなか自主的に行うという定着ができていない。家庭と連携していくと共に見届けた一人ひとりの姿に合わせて繰り返し指導していく必要がある。</li> </ul>	

重点3	保護者・地域に幼保連携型認定こども園についての理解を深めてもらうための情報発信を具体的におこなう。	4
成果と課題	<p>○成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園行事や保育参加などの場を通して、また地域に出ていくことで子どもたちが生活や遊びの中で成長し合う姿を保護者や地域の方にみてもらい、子どもが共に育つ大切さを伝えることができた。</li> <li>・塩浜中学校区の「学びの一体化」研修に今年はクラス担任が参加したことで、園の子どもの実態をより具体的に発信すると共に、小中学校の児童生徒の状況を知ることによって共通理解をより深めるきっかけになった。</li> <li>・園内での日々の活動や行事の取組みをホワイトボードや貼りだしを活用して保護者や来園者に知らせ、情報発信している。</li> <li>・年に数回園の保育教育活動のアンケートを取り、集約結果を印刷して配布したり、園日より、クラスだよりを通して園の保育教育活動の理解をもらえるよう取り組んでいる。</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者に園のビジョンを理解していただくために、各保育室、廊下の掲示板、HPなどに掲示して就学前教育の重要性を発信している。ビジョンを説明する場を数多く設けていきたい。</li> </ul>	

## 2 改善方針

<p>○入園式や保育参加、講演会などの場を活用して、園のビジョンの説明や「こども園」について理解してもらう取り組みをする。</p> <p>○教育ビジョンやこども園について職員が共通理解できるよう園内研修で深め、日ごろの保育の中で保護者や地域にアピールできる力を身に付けていく。</p> <p>○全職員が各クラスの子ども一人ひとりの発達や特性を理解し、その時期に合った環境設定や保育教育活動などの教材研究を深める。</p> <p>○橋北こども園などと連携して、こども園の状況に合わせた「自ら選んでする活動」の在り方を模索していく。</p> <p>○園外で行われた各種研修の還流報告を園内研修で全職員が共有できるように行う。</p> <p>○人権保育教育、特別支援保育教育の中で大切にしていることを毎月の園内研修の場で「自分のこと」として全職員で学びあい、実践に生かしていく。</p> <p>○地域とのつながり（老人会、絵本ボランティアなど）や学びの一体化研修（二園交流、小中学校との交流）、園づくり協力者会議の意見、保護者アンケート結果について職員会議、園内研修の場を活用して全職員が共有できるように努める。</p> <p>○園医、歯科医、薬剤師とも連携をとり、子どもの健やかな育ちを保障するための情報発信を保護者や子どもたちにできるようにする。</p>
--

## 自己評価書

四日市市立 笹川中央幼稚園

## 1 園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点1	生活習慣を身につけ、健康な体つくる	3
成果と課題	<p>○教師から積極的に声をかけることで、挨拶をする気持ちよさを伝えてきた。5歳児では自信をもって自分からしようしたり、4歳児では、喜んでこたえる姿が見られるようになった。家庭や地域の中でも自ら進んでできるよう、挨拶することの大切さや、交わすことの心地よさをこれからも伝えたい。(課題「自分から挨拶ができる」保護者評価〈そう思う〉:52%)</p> <p>○5歳児は、クラスみんなでふれあいゲーム遊びで体をほぐし、4歳児は、色々な動きを取り入れた雑巾がけを行った。毎日の積み重ねにより、体力が付き、身のこなしがしなやかになった。(成果「体力がついた」保護者評価A:84%)</p> <p>○4歳児は、教師や友だちと一緒に園庭での遊びを楽しむことで、体を動かす心地よさや楽しさを味わうことができ、意欲的に体を動かして遊ぼうとする姿が見られるようになった。5歳児では、ひとりひとりの意欲や達成度に合わせた支援を工夫したことで、自信が付き、難しいことにも挑戦してみようとする姿が見られるようになった。(成果「戸外で遊ぶことが好きになった」保護者評価A:94%、「脚力がついた」保護者評価A:84%)</p> <p>○4歳児では、園で収穫した野菜をクラスみんなで食べることで、食欲が増し、苦手な野菜でも食べてみようとする姿が見られるようになった。5歳児では、栽培活動や収穫祭に主体的に参加することで、食に対する興味が深まった。育てる楽しさや収穫する喜び、食べてみようとする意欲、食べることができた喜びを感じ、自信につながった。</p> <p>○幼稚園での遊びを十分に楽しむことで、早寝、早起きする姿が見られるようになった。また、十分に体を動かすことで、お腹がすき、食事を楽しみにする姿も見られるようになった。より生活習慣を確立していけるよう、保護者との連携を密にし、継続して取り組んでいけるようにしたい。(課題「手洗い・うがいをすすんでする」保護者評価A:61%)</p> <p>○保護者への啓発として、夏休みと冬休みに「親子ふれあい体操チャレンジシート」を作成した。親子で楽しんで取り組んでもらうことができ、夏休み、冬休みにも体を動かして過ごしてもらうことができた。より、体を動かす大切さが伝わるよう工夫していきたい。</p>	
重点2	互いを認め合い、温かい人間関係を育てる	3
成果と課題	<p>○子どもたちの楽しんでいること、興味のあることを見極め、教材研究をし、前日の続きができるようにしておいたり、お面やついたてなどの具体物を準備したりするなど環境設定を工夫してきたことで、好きな遊びが見つかり、遊びを楽しみに登園する姿が見られるようになった。幼児が心を動かされるような遊びを見つかけられるように、今後も研修を積み重ねていきたい。</p> <p>○4歳児では、教師も一緒に遊びを楽しみ、十分に認めてきたことで、自分の思いを出しながら遊びを楽しめるようになってきた。また、好きな遊びを楽しむ中で、友だちと一緒に遊ぶ心地よさや楽しさを感じ、自ら友だちと関わろうとする姿へとつながった。5歳児では、遊びを通してより友だちとの関わりが深まり、互いのことを知ろうとしたり、困っている友だちの姿を見ると心配したりするなど、友だちの気持ちに気付き、自分の思いを伝えようとする姿が見られるようになった。(成果「友だちが増えた」保護者評価A:84%)</p> <p>○自ら選んでする活動では、4歳児は5歳児の姿を見たり一緒に遊んだりすることで、憧れや親しみの気持ちをもつことができた。5歳児は4歳児と関わることで、思いやりの気持ちをもったり、自分の成長を感じたりすることができ、自信につながった。また、一斉活動や園外保育では、ペアを決めて交流してきたことで、より親しい関係となった。</p>	

重点3	豊かな生活体験をし、聞く・話す・伝える力をつける	3
成果と課題	<p>○4歳児では、教師が気持ちを受けとめ代弁していくことで、友だち同士気持ちを伝えようとする姿につながった。まだ、うまく言葉にならなかったり、遠慮したりする姿もあるので、伝わった喜びを感じる経験や、友だちの思いをじっくりと聞く経験を積み重ねていきたい。5歳児では遊びを通して、友だちと関わり合うことがより楽しくなり、思いを伝えたり、相手の思いを聞こうとしたりする姿が見られるようになってきた。</p> <p>○当番活動を通して、4歳児では人前で話す経験をしたり、5歳児では自分で考えて、今日1日で楽しかったことなどを話したりする時間をもつようにした。クラスの友だちが話を聞いてくれることが自信となり、4歳児ではみんなに話すことを喜んだり、5歳児ではどうやって話すか相手に伝わるのかを考えたりする姿につながった。</p> <p>○絵本の読み聞かせでは、子どもたちの興味を捉え、クラスのみんなで楽しめる時間となるように心がけてきた。「これ読んで」と絵本を選んでくる姿も見られ、読み聞かせへの期待が高まっていった。また、クラスのみんなが興味をもった話でごっこ遊びをすることで、友だち同士、遊びの中で言葉のやりとりを楽しむ姿が見られた。保護者へもおたよりを作成するなどし、家庭でも広がるようにしていきたい。(成果「絵本が好きになった」保護者評価A:88%、課題「人の話を聴く」保護者評価A:54%)</p> <p>○わらべうた・言葉遊びを積極的に取り入れ、言葉を豊かにできるよう関わった。またふれあい遊びをする中で、気持ちが和み、心地よさを感じられるようにしてきた。楽しい経験を積み重ねることで、言葉でのコミュニケーションが難しい時でも、一緒に遊んだり、互いに伝えようとしていたりする姿が見られるようになった。</p> <p>○季節の行事では楽しんで参加できるよう、絵本などの教材を使って伝えたり、話をしたりした。互いの文化を知り合うきっかけとなり、互いにとても嬉しい気持ちになる行事となった。(成果「生活経験が増えた」保護者評価A:88%)</p>	

重点4	支え合い協力して取り組む保護者・地域・教職員	3
成果と課題	<p>○保護者に対しては、日々の活動の様子をホワイトボードに書いたり、写真を掲示したり、直接話をするすることで、子どもの成長と一緒に考えることのできる関係づくりを心がけた。ともに幼児を見守り、成長を喜び合うことで、子どもたちも安心して幼稚園に通う姿が見られた。これからも、保護者の思いを聞くこと、教師の思いを伝えることを大切に、一緒に考えていけるようにしたい。クラスだよりなども、保護者に幼児の姿が伝わりやすいよう工夫していきたい。</p> <p>○茶話会・日本語教室など、保護者の交流の場を設定した。PTA役員を中心に沢山の参加が見られ、交流を楽しむ姿を見ることができた。全職員で協力し、よりよい交流の場にしていきたい。</p> <p>○保育園との交流では、同じ地域で生活している友だちとふれあい、関わりを楽しみ、小学校や中学校との交流では、小学生や中学生の温かさを感じ、憧れの気持ちをもつことができた。職員間では公開保育・授業で参観し合ったり、学びの一体化の会議では互いの事を伝え合う機会をもったりした。保・幼・小・中で共通の思いをもって子どもたちを育てていくことができるよう、連携を続けたい。また、地域の方々のふれあいを積極的にもつことができ、地域の方々の温かさを感じ、感謝の気持ちをもつよい機会となった。</p> <p>○園内の職員同士では、子どもたちの様子を日々話し合い、全職員で共通理解をし、考え合いながら保育を実践することができた。研修を積み重ね、より子どもたちのことを深く捉え、話し合いを深めていきたい。</p>	



## 2 改善方針

### 重点①

○より体を動かす大切さが伝わるよう、「親子ふれあい体操チャレンジシート」の作成など継続して続けていくとともに、保育参観時にも、親子で体を動かす時間を取り入れるなど工夫していきたい。

○幼児の姿に合わせてサーキットコースを計画的に設定していくとともに、固定遊具にも興味をもったり、意欲的に取り組んだりしていけるよう、目標がもちやすいイラストなどの表示を取り入れ、園庭の環境を工夫していく。

○教師が挨拶をする姿を見せたり、絵本などの教材も使ったりしながら、挨拶をする、してもらう気持ちよさを十分に感じられるよう関わっていく。

### 重点②

○ひとりひとりのありのままを受けとめ、「ひとりひとりに違いがあることがあたりまえ」と感じられる仲間づくりをすすめていく。

○子どもたちが互いを知り合い、認め合えるよう、日本の教材や絵本、ゲームだけでなく、色々な国のものを積極的に取り入れ、楽しめるようにしていく。

### 重点③

○保護者への啓発として、絵本だよりを作成したり、貸し出しノートの書き方を工夫し、家庭でも絵本の読み聞かせの大切さや楽しさが伝わるようにしていく。

○わらべうたや手遊び、言葉遊びなど、今年度積極的に取り組んできたことを、来年度の計画に取り入れ、より効果的、系統的に実践していけるようにする。

### 重点④

○子どもたちのことをより深く捉えることができるよう、講師を招いての研修や、還元学習、互いのクラスの保育を見合う機会をもつなどし、教師の幼児に対する見方や、援助のあり方を討議することを続けていきたい。

○仕事をしている保護者が多く、緊急時にすぐに迎えにこられないことも想定される。今まで以上に地域の人と連携をとり、幼児を守る手立てを考えていく。

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 三重西幼稚 園

### 1 園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点1	基本的な生活習慣の定着	4
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・時間帯に合った挨拶を意識して取り組んできた。教師が率先して挨拶することで、地域の人や園を訪問する人たちに、また友だち同士挨拶が出来るようになってきた。</li><li>・自分の事は自分でしていこうという意識が年長児はかなりついてきた。自信をつけていく大切さを家庭にも伝えていった。年少児についても、自分で考え行動できるように、丁寧なかかわりを今後もしていきたい。</li><li>・食べる時間を決めたり、話をせず食事に集中できる時間を設けることで“食べること”に意識が向けられるようになってきた。自分達で育てた野菜を調理したり、食べる機会を持つことで食べられるようになってきたり、いろいろな食材を知ることができた。</li><li>・保護者の協力もあり徒歩通園が増えることで歩く力がついた。しかし、計画的に園外保育に出かける機会が少なかったため1年間の見直しをもって計画していく必要がある。</li><li>・三重交番やとみまつ隊に交通安全指導に来てもらい、交通ルールを守る大切さを知り、意識するようになった。</li></ul>	

重点2	遊びの中で人間関係を育む活動の充実	3
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・混合クラスで生活する中で、相手を思いやったり、年齢に関係なくお互いのがんばりや良さを認め合う力がついた。ペアに対して親しみを感じ、一緒にいることで安心できたり、うれしさを感じたり、繋がりがより深まった。</li><li>・友だちのことを意識するところから認め合えるようなかかわりをしていた。相手の良さだけでなく、ありのままを受け入れ理解していく姿が今後も広がっていくようにしていく。</li><li>・一人一人の幼児の様子や発達を見極めながら、どのような援助が必要であるか、教師間で連携して取り組むことができた。そのことによって、子ども達が遊びの中でつながったり、遊びを深めることにつながった。一方、遊びの幅を広げられるような環境や援助の必要性を感じた。</li><li>・教師が話を聞き、思いを受け止めたり、自分の思いを出せるようになってきたことで話をしたり表現することが楽しいと感じられるようになった。一方で、自分の思いを強く出し過ぎた時は、相手の思いに気づけるよう仲立ちとなってかかわってきたので、徐々に相手の思いに気づき、互いに思いや考えを出し合いながらかかわり、遊びを進めるようになってきた。自分達で相手がどう思っているか耳を傾けられる仲間作りを今後も継続していきたい。</li></ul>	

重点3	家庭や地域・小学校・中学校と連携した園づくり	3
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 降園時やおたよりなどで園での取り組みや子どもの様子を伝えてきた。今後もより積極的なかかわりの工夫が必要である。</li> <li>・ 親子で絵本借りをすることで絵本に親しみを持ったり、親子でじっくり触れ合う機会が持てた。毎回教師が読み聞かせをしたが、時には保護者が1対1で読み聞かせをする機会をもってもよかった。</li> <li>・ あそび会との交流を持つ中で、年下の子と関わる機会が今年は昨年度より少なかったため、計画的に取り入れて、お兄さんお姉さんになる自信につなげていきたい。</li> <li>・ いきいきサロンや城山クラブの方達と交流する機会を多く持つことで地域の人と触れ合ったり、自分たちが住んでいる町のことを知る機会が持てた。</li> <li>・ 年長児だけでなく、年少児も小学校へ行く機会が多く持てたことで、親しみを持つことができた。</li> </ul>	

## 2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な生活習慣については、家庭との連携を大切にしながら教師からの発信をより積極的にし、家庭と一緒に子ども達に力をつけていけるようにしたい。</li> <li>・ 言われたからするのではなく、自分でなぜ必要なのか考える力を育てるかかわりや指導計画に重点を置き、教師一人一人が意識を高め、かかわりを見直していく。</li> <li>・ 家庭で経験できないことを、幼稚園での遊びや活動に取り入れ、イメージする力や、経験したことを遊びに取り入れていけるかかわりを取り入れていく。</li> <li>・ 遊びやクラスの活動において教師や友だちとかかわる中で、自分の気持ちを表現したり、相手の思いを受け入れたり、気づいたりする場を意図的に作っていくことで、互いの良さを感じたり友だちと思いやったりする心が育つようにしていく。</li> <li>・ 混合園の強み弱みをしっかりと理解し、他の混合園と情報を交換しながら、子ども達の力を伸ばしていくために必要なかかわりや、年間を通した計画についてを学び、自園の子ども達の育ちへとつなげていく。</li> <li>・ 研修では年間を通し、見直しを持って進めていくとともに、日々の幼児の姿についても振り返る機会を持ち、教師自身の意識を高められるようにする。また、行事の打ち合わせをしたり、日々の保育で共通理解しておくべきことを密に話し合うことで、言葉のかけ方や援助の仕方を今後さらに工夫する。</li> <li>・ あそび会について、手紙やチラシなどで内容を知らせたり、在園児との交流を増やすことで参加しやすい状況を設定したり、参加したいと思える内容を工夫する。</li> </ul>
--

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 楠北幼稚 園

### 1 園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点1	自立 基本的生活習慣の定着	3
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が一人一人丁寧に、笑顔で明るく挨拶することでその気持ちよさを感じることができた。今後も幼児同士で挨拶を交わしあったり、自らすすんで元気よく挨拶をしたりすることが定着できるようにしたい。</li> <li>・基本的生活習慣においては、その必要性に気づかせたり、丁寧にしようとする幼児の姿を認めたりしながら根気よく取り組んできたところ、自ら行おうとする姿勢が身についてきた。「手洗い・うがいをすすんでする」と60%の保護者がA評価(そう思う)だった。今後も家庭と連携して、取り組んでいきたい。</li> <li>・楽しく食事ができる雰囲気や食品の栄養に関する話をしていくことで、苦手なものも食べてみようとする気持ちももてるようになった。また自分が食べられる量を伝えることで、完食する喜びや自信を得ることができた。「きれいな食べ物でも食べようとする」とA(そう思う)B(おおむねそう思う)評価をあわせると90%以上になり、成果を得ている。</li> <li>・幼児の姿に合わせて室内にも体を動かして遊べる環境(トランポリン、巧技台など)を継続的に設定したことが、幼児の体作りにつながった。</li> </ul>	
重点2	意欲 元気に遊ぶ(学ぶ)力の育成	4
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児が気づいたことや感動したことに共感することで、遊びへの意欲を広げたり、高めたりしていくことができた。</li> <li>・竹馬、跳び箱、鉄棒では個々の幼児が目標を持って取り組む姿がみられた。できることだけでなく、一生懸命取り組む姿を認めていくことで、充実感や達成感を味わうことができ自信につながった。</li> <li>・幼児の遊びのイメージを実現できるように、様々な教材や空間を準備することで、工夫することを楽しんだり、発展させたりすることができた。「遊びを試したり工夫したりする」と80%の保護者がA評価であった。</li> <li>・だるまさんころんだ、はないちもんめ、かごめかごめなどの伝承遊びを取り入れたことで、友達同士誘い合い遊びを楽しむ姿がみられた。</li> <li>・豊かな遊びや活動を展開するための環境や援助について、幼児の発達を見据えねらいを明確にし、見通しをもった取り組みをしていくための園内研修を深めていくことが必要である。</li> </ul>	
重点3	協同 豊かな心の育成	3
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びや生活の中で、幼児同士で考え合う場面を見逃さず、共に考えたり、見守ったりすることを積み重ねてきたことで、自分の思いを素直に伝え、認め合えるようになってきている。</li> <li>・「友だちが増えた」と80%の保護者がA評価だったのに対し、「相手にわかるように話す」「人の話を聴く」に関してはA評価が50パーセントであった。クラスの課題や、個々の幼児の思いをクラス全体に投げかけ、みんなで話し合う機会を作っていた。友だちの気持ちを考えたり、自分の伝え方を振り返ったりしていくことで、仲間を思いやる気持ちが育ってきている。互いにアイデアを出し合って遊びをすすめたり、みんなが楽しめるようなルールを考えたりする姿があり、仲間関係を深めていく取り組みを続けていきたい。</li> <li>・「聞く」姿勢を身につくことができるように、教師一人一人が意識を持って取り組む必要がある。幼児の「聞く」時の態度、気持ちなど、丁寧に教えていきたい。</li> </ul>	

重点 4	地域・保護者との連携と協同	3
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と積極的に話をしていくことで、保護者の思いを聞いたり、共に考えたりしていくことで信頼関係を築くことができるように努めた。教師の思いの伝え方や話の聞き方を工夫していく必要があるが、保護者の思いをしっかり受け止め、安心してもらえるよう意識して取り組むことができた。</li> <li>・芋ほりや交通安全教室など、様々な活動で地域の方と交流する機会を持つことができた。地域の方の温かいまなざしや言葉に触れ、親しみを感じることができた。</li> <li>・中学校区において、人権教育の実践を還流したり、体育祭やお店屋さんごっこなどで交流したりすることで、お互いを知りあう良い機会になった。今後も計画的に取り組み、幼児期に育みたい学びを深め、発信できるようにしたい。</li> </ul>	

## 2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度初めに幼児の姿をしっかり捉え、つけたい力を明確にし、長期・短期の計画を具体的にたて、その都度振り返りながら、継続的に取り組んでいく必要がある。</li> <li>・行事に追われることも多かったが、日々の遊びや活動を行事につなげていくことができるよう、見通しを持って早めに計画をたて、幼児が主体的に活動できる内容を話し合っていきたい。</li> <li>・園内での栽培活動をもう少し充実させていきたい。園内の畑は小さいが、プランターを使いながら、園児が栽培に関心を持ちやすいような環境を作るなどの工夫をしていきたい。教師もいろいろな栽培物や栽培方法などを学び、食育活動や人権教育につなげていきたい。</li> <li>・幼児の姿や教育実践について、保育後に全職員で話し合う機会を持てたことはよかった。話し合ったことを自分なりに振り返り、保育につなげていくことが大切である。そのためにも、実践や話し合い、振り返りを園全体の記録として積み重ね、教育活動の向上を目指していきたい。</li> </ul>
---

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 楠南幼稚園

### 1 園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点1	基本的な生活習慣の自立	3
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・あいさつ・身の回りの始末 当初は緊張や不安もありあいさつを自発的に行える子は少なかったが、保護者に必要性を知らせ協力を得ることで少しずつ親しみを込めて出来る様になった。手洗い、うがいや身の回りの始末など必要に応じて繰り返し支援・指導することで身につけてきた。</li><li>・集団生活の約束 具体的な声掛けをすることで順番を守ったり安全に遊具を使ったり片付けに取り組めるようになってきた。</li></ul>	
重点2	健康な身体づくり	3
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・早寝早起き朝ごはん 定期的にアンケートを取ることで必要性の啓発や実態把握をすることが出来た。今後も家庭と連携しながら幼児期の生活リズムについて引き続き指導をする。</li><li>・食育推進 収穫した野菜を活用してのクッキングや給食を通して少しずつ苦手なものを食べられる幼児が増え、本人も自信をつけてきた。しかし、中には食事に時間が掛かる幼児もいる。</li><li>・運動遊び 日常的に遊びながら身体作りが出来る様に環境構成を行ったところ、戸外活動を好み、身体を動かすことが好きな幼児が増えた。引き続き取り組み、バランスや持続力、しなやかさを伸ばしたい。</li></ul>	
重点3	思いやりの心の育成	3
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・自己表現 4月当初から異年齢で過ごすことで特に4歳児が不安にならず安定して過ごせた。自分の思いを率直に表現する幼児が多くトラブルもあったが相手の思いを聞く機会を持つことで少しずつ譲ったり相手を思いやるようになってきた。</li><li>・自尊感情 周りの大人から温かい気持ちで受け入れられることで自分を大切に、友だちに対しても優しく出来る様になってきた。しかし、中には初めての経験や苦手な事に対しては避けようとする姿もあるので、出来ないことがいけないことではない事を伝え、意欲を持てるような取り組みを工夫していく。</li><li>・聴く力話す力 自分の思いを話したい気持ちが強く相手に分かる様に伝えたり友だちの思いに気づくのは難しい。幼児の話したい思いを十分に受け止めながら相手の話を聴く事の大切さを引き続き指導が必要である。</li></ul>	

重点 4	保護者、地域に根ざした幼稚園	3
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭との連携          幼児の発達や課題、子育てなどについて登降園等の際に日常的に話し合い連携を取ることが出来た。ただ、保護者の様々な思いや幅広いニーズに十分応えられない事もあった。保護者の期待する幼稚園での教育活動について前向きに話し合う事が必要である。サツマイモ掘りでは半数以上の保護者がサポーターとして協力してくれ、幼児と共に収穫体験を楽しむことが出来た。送り迎えやPTA親和会、学級懇談会などを通して保護者同士の繋がりも深まってきた。</li> <li>・ 地域交流・人とのふれあい          幼児の健康状態を把握し、年度当初から園外へ出かける事が出来た。南地区内ではあるが地域の人との交流を工夫し、関わりやふれあいを持つことが出来た。保幼小中との関わりも昨年以上に計画立案し回数を重ね、深める事が出来た。</li> <li>・ 情報発信          中学校区や幼稚園のグループ研修で公開保育を実施し、園の教育活動について学ぶ機会が持てた。また保小中など異校種に対して幼稚園の実態を知ってもらえる機会となった。          ホームページや便りを通して具体的な幼児の活動や姿を積極的に発信することが出来た。</li> </ul>	

## 2 改善方針

- ・ 基本的な生活習慣の大切さについて引き続き家庭と連携し、幼児自らが出来る様に必要な指導・支援を実施する。
- ・ 一人一人の発達や家庭の状況を十分に把握した上で、今必要な経験や活動は何かと常に考え、幼児の発達がより促される指導を心掛ける。
- ・ 幼児が興味を持ち、意欲的に取り組めるような環境構成や教材の研究に努め、教師と幼児ではなく幼児同士の関わりが広がり、深められるような言葉がけを行う。